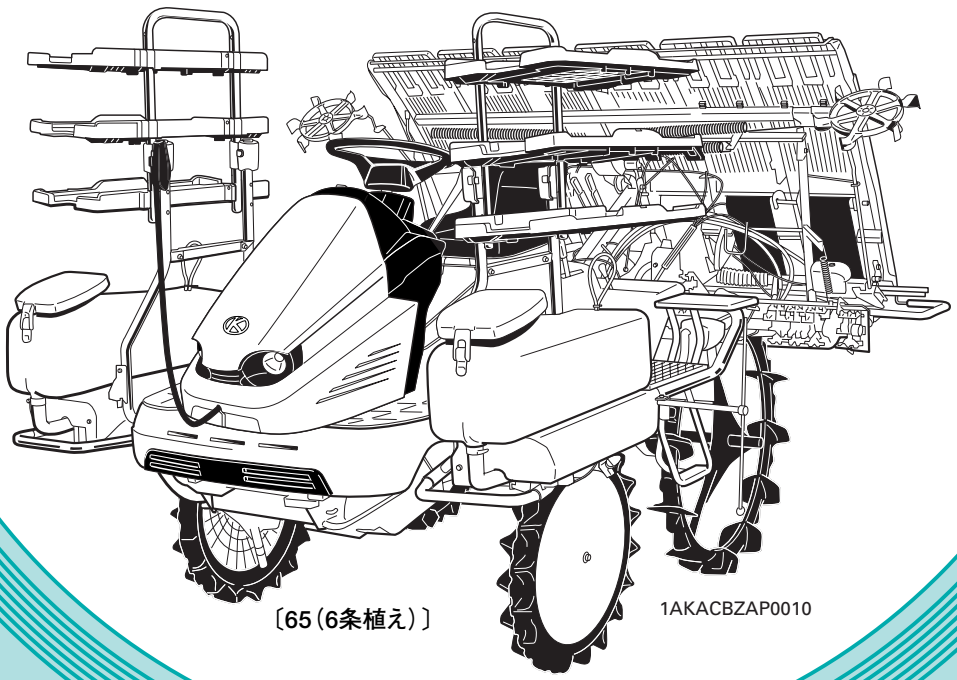
クボタ乗用田植機

ペースト施肥装置 取扱説明書

WELSTAR RACWEL

EP55・65・67・87-Q Q2 EP8D-Q Q2



〔65（6条植え）〕

1AKACBZAP0010

Operator's manual

ご使用前に必ずお読みください
いつまでも大切に保管してください

はじめに

このたびはクボタ製品をお買上げいただきありがとうございました。
この取扱説明書は，（２段）ペースト施肥仕様機について，特に異なる部分の取扱方法，簡単な点検及び手入れについて説明してありますのでその他の説明については，別冊の取扱説明書をご覧ください。（別冊と異なる部分は，必ずこの取扱説明書を優先してご活用ください。）
この取扱説明書は本製品の正しい取扱い方法，簡単な点検及び手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただいてじゅうぶん理解され，お買上げの製品がすぐれた性能を発揮し，かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。また，お読みになったあとも製品に近接して保存し，わからないことがあったときには取出してお読みください。なお，品質・性能向上あるいは安全上，使用部品の変更を行なうことがあります。その際には，お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので，あらかじめご了承ください。

⚠ 安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた⚠の表示があるラベルは，人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお，⚠表示ラベルが汚損したり，はがれた場合はお買上げの購入先に注文し，必ず所定の位置に貼ってください。

注意表示について

本取扱説明書では，特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について，次のように表示しています。

⚠ 危険	注意事項を守らないと，死亡又は重傷を負うことになるものを示します。
⚠ 警告	注意事項を守らないと，死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠ 注意	注意事項を守らないと，ケガを負うおそれのあるものを示します。
重要	注意事項を守らないと，機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。
補足	その他，使用上役立つ補足説明を示します。

本製品の使用目的について

本製品は，稲の苗の植付け用の作業機としてご使用ください。
使用目的以外の作業や改造はしないでください。
使用目的以外の作業や改造をした場合は，保証の対象になりませんのでご注意ください。（詳細は保証書をご覧ください。）

仕様について

この取扱説明書では，仕様の異なる製品を下記のように表示していますので，お買い上げの製品の仕様をお確かめのうえ，お間違いのないようお願いいたします。
なお，説明は［EP55・65-Q・Q2 仕様］を基本とし，［EP55・65-Q・Q2 仕様］と取扱いが異なる場合はそのつど追加説明してあります。従って，機種及び仕様区分によっては付いていない装置の説明もあります。

基本型式の表示

【例】EP87 － Q R

①　②③

①名称・植付条数によって
●ウエルスターラクエル
EP55 ..... ５条植
EP65 ..... ６条植
EP67 ..... ６条植
EP87 ..... ８条植
EP8D ８条植
②施肥装置
●Q ..... 側条ペースト施肥装置付
●Q2 ..... 側条・深層（２段）ペースト施肥装置付
③予備苗のせ台によって 表１参照

※諸装置(全機種装備)について 表２参照
※諸装備(機種別装備)について 表３参照

●表１

表示	とう載枚数	対象型式
D（固定式）	6	55・65・67
	8	87，8D
R（レール式）	6	55・65・67
	8	87，8D

●表２

諸装置	
自動化装置	十字ポンパ（二段）
	植付部自動水平制御装置（モンロ）
諸機能	バックアップ機能
	ノーペダル旋回機能（ゆう優ターン）
	自動植付機能（スーパーゆう優ターン）
	ゆう優ロータ

●表３

諸装備	対象型式				
	ウエルスターラクエル				
	55	65	67	87	8D
水冷４サイクル２気筒OHCガソリンエンジン	○	○	－	－	－
燃料噴射式水冷４サイクル２気筒OHCガソリンエンジン	－	－	○	○	－
水冷４サイクル３気筒立型ディーゼルエンジン	－	－	－	－	○
ワイド・ロングステップ	○	○	○	○	○
回転マーカ	○	○	○	○	○
e-stop	○	○	○	○	○
アクセル連動主変速レバー	○	○	○	○	○
LEDマスコット	○	○	○	○	○

目　次

⚠安全に作業するために

1. 表示ラベルと貼付け位置 1
2. 表示ラベルの手入れ 1

作業装置の名称と取扱い

作業装置の名称とはたらき 1
ポンプ条止めレバー 2
施肥量調節レバー 1,2 3
タンク 3
しゅう動板ガード 4
メインパネル 5

運転前の点検

日常点検項目 7

移動走行と輸送

移動走行について 8
輸送について 8
田植機の準備 8
トラック上での処置 8

田植作業のしかた

施肥作業のしかた 9
ほ場と肥料について 9
作業前の準備 10
施肥作業のしかた 13
あぜぎわの植付けかた 14
タンク内の肥料の排出のしかた 15
作業に合わせた各部の調節･調整 15
ノズルの調節 15
施肥量の調節 17
メインパネルによる異常と処置 25

メンテナンス

各部のオープン（開閉）と脱着のしかた . 26
サイドカバーの脱着 26
各部の掃除のしかた 26
掃除のしかた 26
定期点検 28
廃棄物の処理について 28
使用者が行なってはいけない修理 28
定期点検一覧表 29
給･注油（水）点検一覧表 29
オイル・グリースの点検・補給・交換 30
施肥作業後の手入れ 31
毎日の作業後 31
長期格納時 31

施肥機の不調と処置

施肥をしない・施肥がばらつく 32

付表

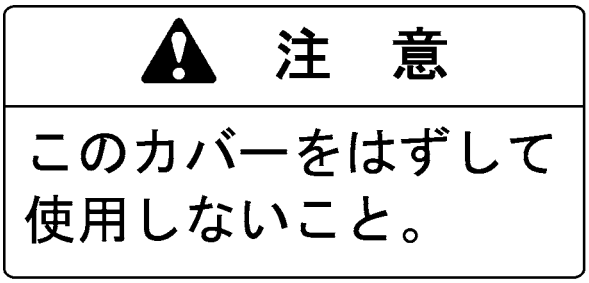
主要諸元 34

⚠ 安全に作業するために　　必ず読んでください

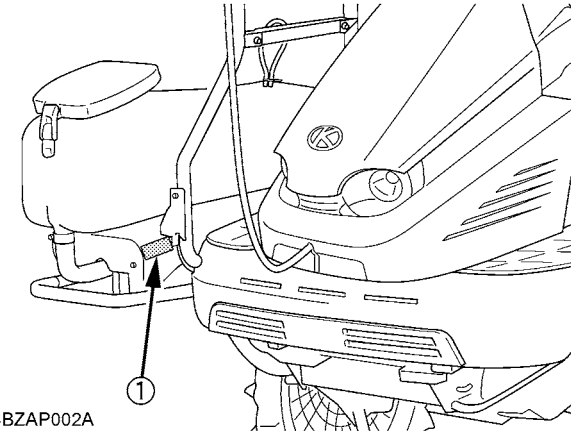
本機をご使用になる前に，必ずこの『取扱説明書』をよく読み理解した上で，安全な作業をしてください。安全に作業をしていただくため，ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが，これ以外にも，本文の中で⚠危険・⚠警告・⚠注意・重要・補足としてそのつど取上げています。

1. 表示ラベルと貼付け位置

(1)品番　71713-7114-1



1AKACBAAP024J



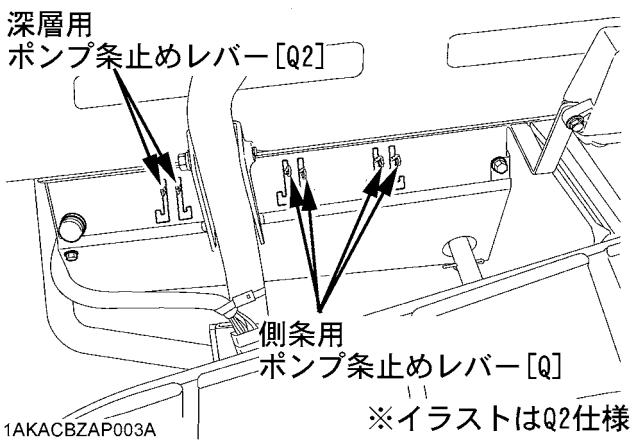
1AKACBZAP002A

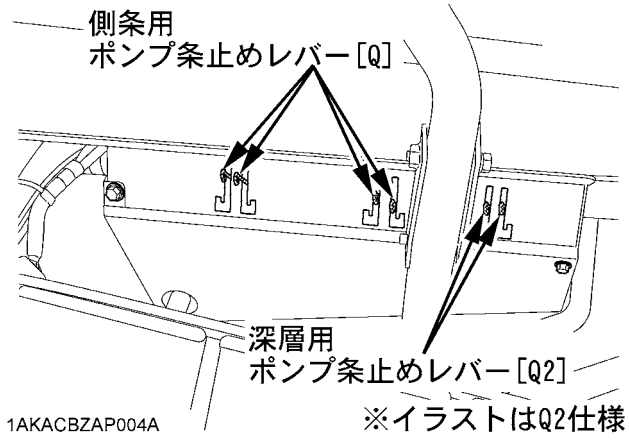
2. 表示ラベルの手入れ

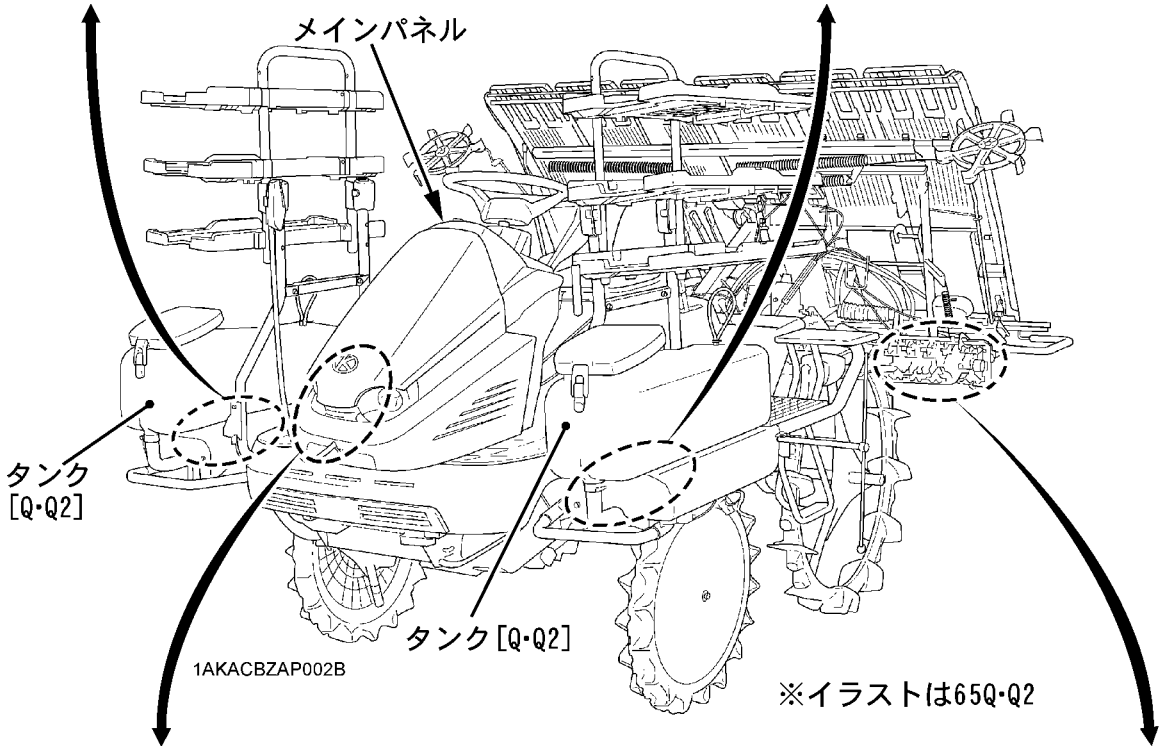
1. ラベルは，いつもきれいにして傷つけないようにしてください。
   もしラベルが汚れている場合は，石鹸水で洗い，やわらかい布でふいてください。
   シンナーやアセトンなどの溶剤を使うと，文字や絵が消えることがありますので絶対に使わないでください。
2. 高圧洗浄機で洗車すると，高圧水によりラベルが剥がれるおそれがあります。高圧水を直接ラベルにかけないでください。
3. 破損や紛失したラベルは，製品購入先に注文し，新しいラベルに貼替えてください。
4. 新しいラベルを貼る場合は，貼付け面の汚れを完全にふき取り，乾いた後，もとの位置に貼ってください。
5. ラベルが貼付されている部品を新部品と交換するときは，ラベルも同時に交換してください。

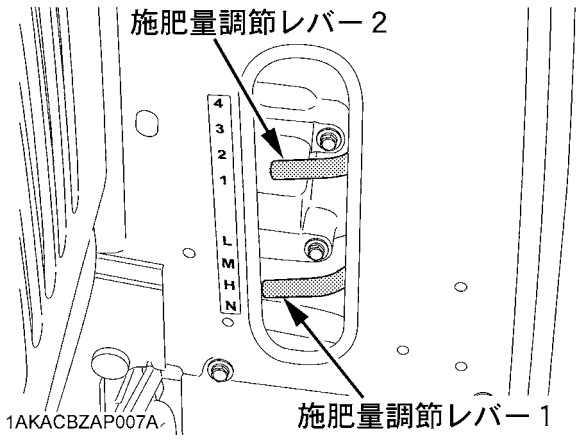
作業装置の名称と取扱い

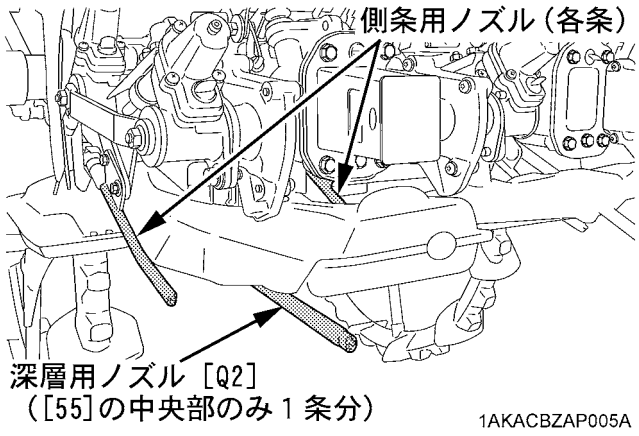
作業装置の名称とはたらき





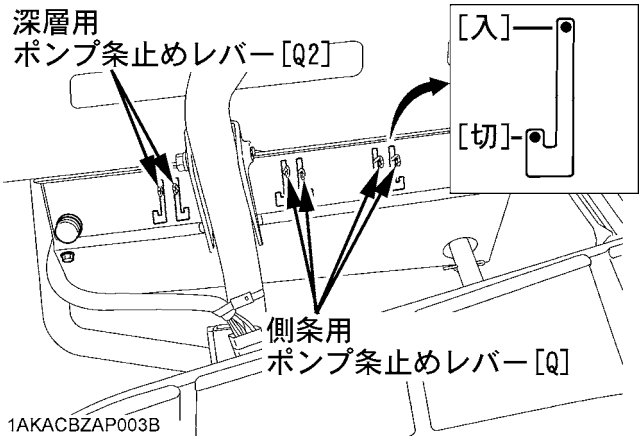


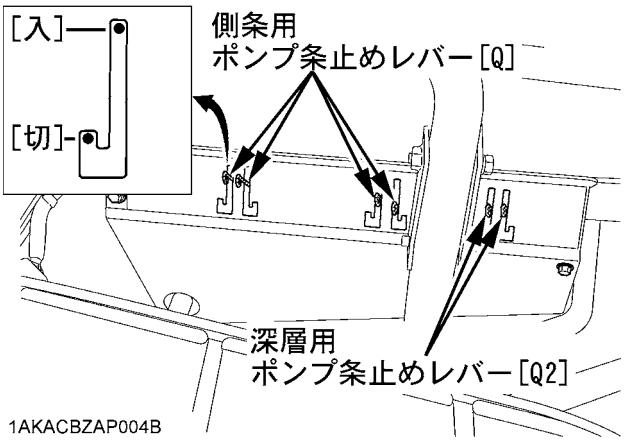


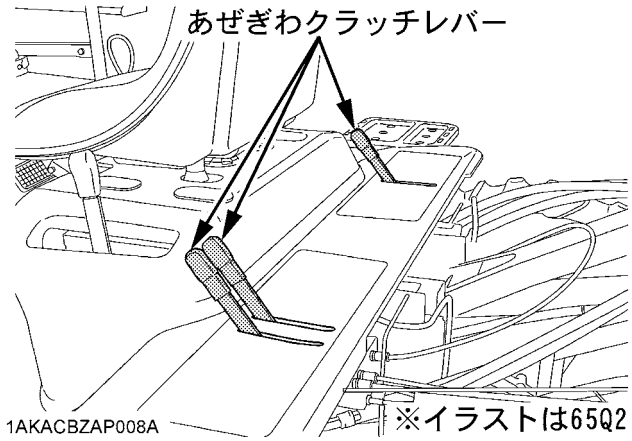


■ポンプ条止めレバー

ポンプ条止めレバーは，肥料の繰出しを１条分停止（ポンプ停止）するレバーです。
ほ場の形状にあわせて，必要なときに使用してください。







補　足

＊ ２条分（**[55]** 中央部）の肥料の繰出しを停止するときは，あぜぎわクラッチレバーを使用してください。
＊ あぜぎわクラッチレバーを**【切】**位置にして植付作業を行なうと，メインパネル内のあぜぎわモニタのランプが点滅します。また，全条植えを行なうときは必ずレバーを**【入】**位置にしてください。
＊ 十字ポンパレバーを操作して，植付けを停止すると同時に肥料の繰出しも停止します。
＊ あぜぎわクラッチレバーを**【切】**位置にすると，ポンプ条止めレバーも連動して**【切】**位置に動きます。
また，あぜぎわクラッチレバーを**【切】**位置にすると，ポンプ条止めレバーは**【入】**側に操作できません。
＊ ポンプ条止めレバーを**【切】**位置にしたときは，切欠部に引掛けてください。
＊ ポンプ条止めレバーを操作しても，あぜぎわモニタのランプは点滅しませんので，入れ忘れに注意してください。

■施肥量調節レバー 1, 2

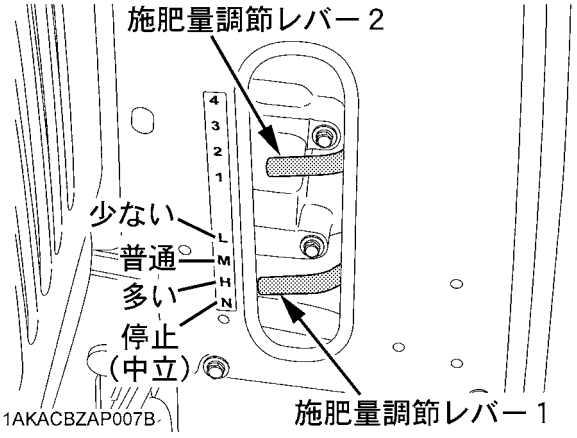
施肥量を調節するレバーです。フロントマット右下にある調節レバー１（変速レバー１）で３段階，調節レバー２（変速レバー２）で４段階の調節が行なえます。

施肥量調節目安表 側条施肥（上段）

レバー位置		施肥量（窒素成分）kg／10a
L	1	14 (1.7)
	2	16 (1.9)
	3	19 (2.3)
	4	22 (2.6)
M	1	24 (2.9)
	2	28 (3.3)
	3	32 (3.9)
	4	38 (4.5)
H	1	41 (4.9)
	2	47 (5.6)
	3	55 (6.6)
	4	64 (7.6)

深層施肥（下段）の場合は、上記繰出し量の半分となります。
注）この表は目安であり，繰出しテストを行ない再調整してください。

1AKACBAAP030J

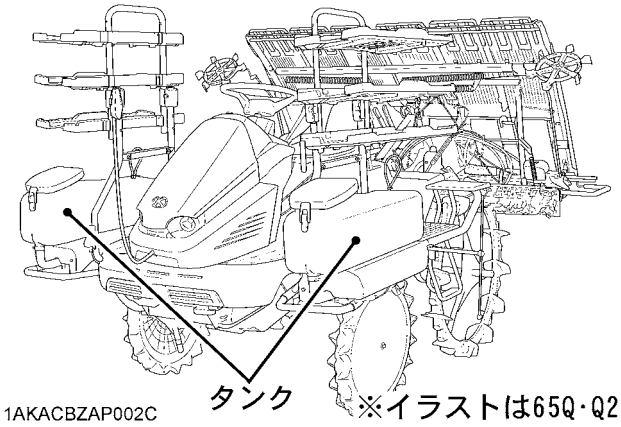


補　足

＊ 施肥量は変速レバー１，２で 12 段階の調節が行なえます。
＊ 調節レバーを操作すると，肥料繰出し用のポンプ駆動の変速機が変速されます。
＊ 施肥を行なわないときは，調節レバー１を**[N]（中立）**位置にしてください。

■タンク

ペースト（液状）の肥料を入れるところです。

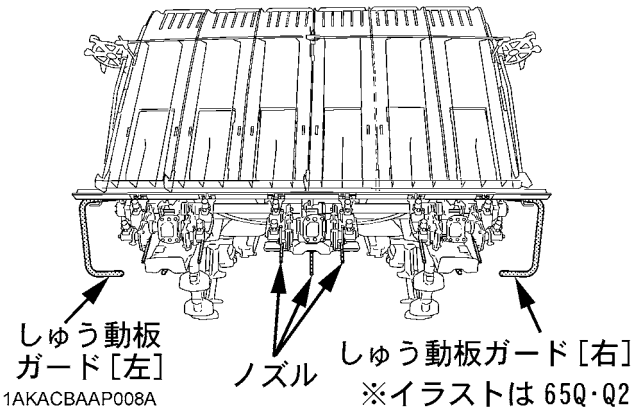


補　足

＊ 各タンクの容量は約 36L（約 50kg）です。

■しゅう動板ガード

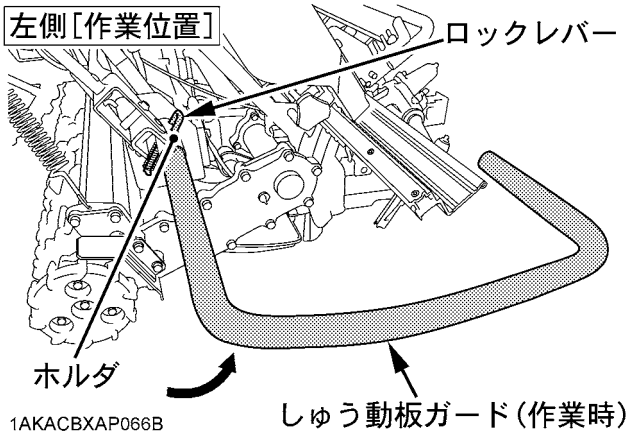
停車して植付部を下降するときは，しゅう動板ガードを収納位置にして，ノズルの破損防止を行なってください。また，植付作業や移動走行を行なうときは作業位置にしてください。

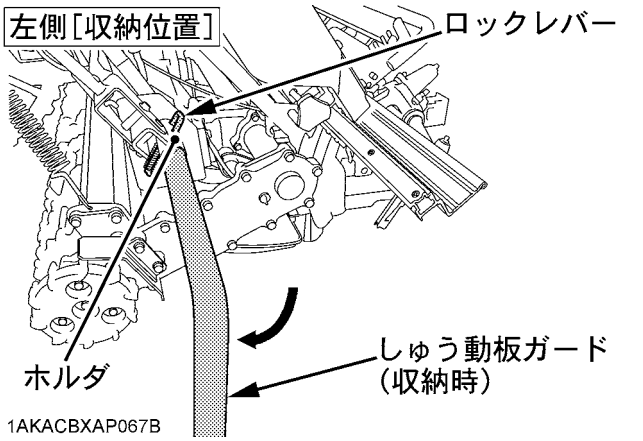


[55・65・67]

しゅう動板ガード（左，右）を収納位置にします。

1. ロックレバーを後側に引きながら，しゅう動板ガードを回転させて収納位置でロックレバーを差込みます。
2. 右側も同様の手順でセットします。



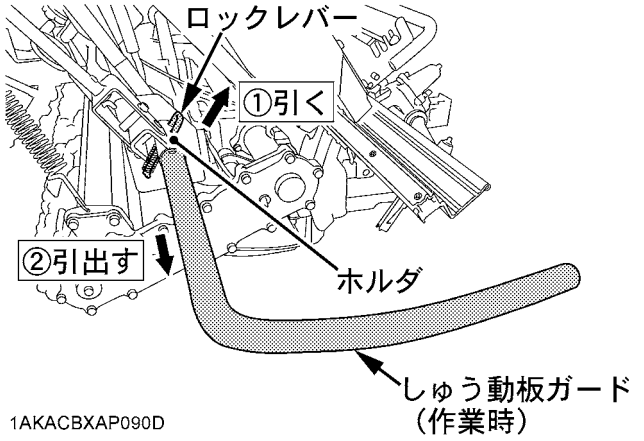


[55・65・67]

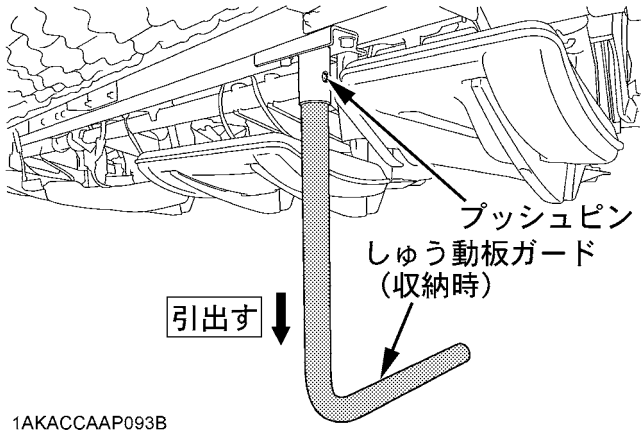
[87，8D]

しゅう動板ガード（左，右）を収納位置にします。

1. ロックレバーを上側に引いている状態で，しゅう動板ガードのプッシュピンを押しながらしゅう動板ガードを引出します。



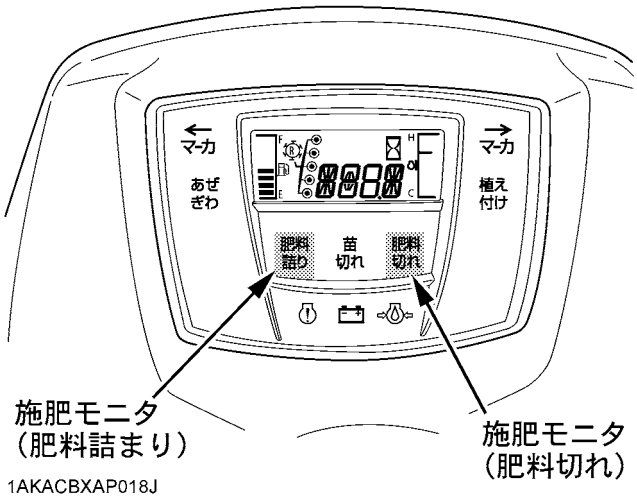
2. プッシュピンを押しながらしゅう動板ガードを収納位置の穴に差込みます。



3. 左側も同様の手順でセットします。

[87，8D]

■メインパネル



1AKACBXAP018J

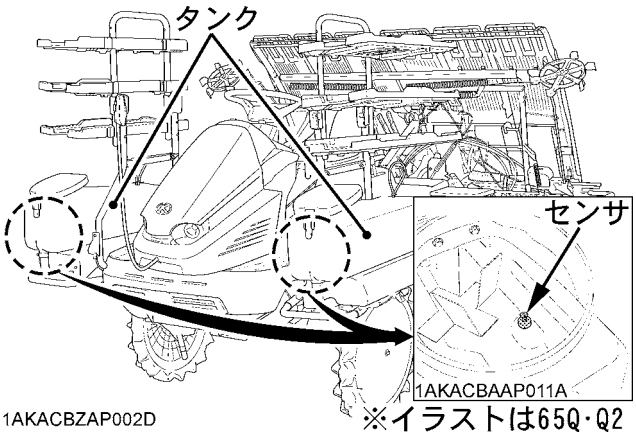
● 各モニタ（警報ランプ，警報ブザー）

・施肥モニタ（肥料切れ警報）

施肥作業中に肥料が残り少なくなったときに，ランプが点滅しブザーが鳴ります。

補　足

＊ 肥料切れ警報は，肥料がなくなってきたとき，各タンク内にあるセンサが感知してはたらきます。



1AKACBZAP002D

※イラストは65Q･Q2

・施肥モニタ（肥料詰まり）

施肥作業中に肥料が詰まったときに，ランプが点滅しブザーが鳴ります。

補　足

＊ 警報発生後の処置については，別冊本機編の**メインパネルによる異常と処置**の項を参照してください。

＊ エンジンが停止状態のとき，キースイッチを**［運転］**位置にすると，各モニタのランプがランプチェックのため約２秒間点灯したあと消灯します。

運転前の点検

故障を未然に防ぐには，機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。日常点検は一日一回，運転前に欠かさず行なってください。(点検・調整方法の詳細は，26 ページを参照。)

警 告

＊ 平たんな場所で駐車ブレーキを掛け，必ずエンジンを停止してから行なってください。
＊ 燃料の補給中やバッテリの点検・充電・交換中は火気厳禁です。
＊ 取外した回転部のカバー類は，衣服などが巻込まれるおそれがあるので，点検後は必ず取付けてから作業をしてください。

注 意

＊ オイル補給中は火気厳禁です。
＊ 運転前にブレーキや安全装置などの日常点検を行ない，摩耗や損傷している部品があれば交換してください。また，定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。
＊ 使用前にはオイルが規定量入っているか必ず点検してください。
＊ 燃料，オイルを補給したときは，キャップや給油栓を確実に締め，こぼれた燃料やオイルは，きれいにふき取ってください。
＊ バッテリ，マフラやエンジン・燃料タンク・ベルトカバー内・配線部周辺にごみや燃料の付着，泥の堆積などがあると火災の原因になることがあります。日常点検をして取除いてください。

重 要

各部への給油と交換

＊ 点検するときは機体を水平な場所において行なってください。傾いていると正確な量を示しません。
＊ 使用するエンジンオイル，ミッションオイル，グリースは，指定の**［クボタ純オイル・純グリース］**を必ず使用してください。
＊ 燃料補給の際は，ごみや水が混入しないようにしてください。

◆ 前日の異常箇所

前日の作業中に異常を感じたところがあれば，使用前に支障がないか点検してください。

◆ 田植機の回りを歩いて

1. ボルトやナットのゆるみや脱落がないか点検します。
2. 車体各部の変形や損傷がないか点検します。
3. 油もれや水もれなどないか点検します。
4. 機体各部にごみや泥がたまっていないか点検します。

日常点検項目

補　足

＊ 施肥装置以外の点検項目については，別冊の本機編の**運転前の点検**の項を参照してください。

＜ここを＞➡	＜点検し異常があれば＞➡	＜こうする（処置）＞	参　照 ページ
機体の周りを歩いて			
機体各部	1. 損傷や変形はないか。 2. ボルトやナットのゆるみや脱落はないか。 3. 油もれや水もれはないか。 4. ごみや泥などがたまってないか。	1. 修理又は，交換をする。 2. 補充や増締めをする。 3. ホースやパイプの取付部の締付け又は，部品交換する。 4. 掃除する。	－ － 26 26
ホース・チューブ	● 破損や外れはないか。 ● 肥料が付着してないか。	● 交換又は，取付けをする。 ● 掃除する。	26
ノズル	● 肥料や泥が付着していないか。	● 掃除する。	26

重　要

＊ 処置したあとに異常が直らないときは，購入先に連絡してください。

移動走行と輸送

別冊本機編の**移動走行と輸送**の項を参照してください。

移動走行について

この田植機は，道路運送車両法の保安基準に適合していませんので，法令により公道は走行できません。従って，公道を移動するときはトラックなどで輸送してください。

注　意

＊ 機械には運転者以外は乗らないでください。また，苗のせ台及び予備苗のせ台の苗やタンク内の肥料は取出し，ステップなどには障害物となるような物は置かないでください。
＊ 植付部は上昇位置で油圧をロックし下降防止を行なってください。

移動走行を行なうときは，しゅう動板ガードを移動走行位置にしてください。また，ノズルをフロート側いっぱいまで上げてください。

重　要

＊ 植付部を下降した状態で走行すると，フロートやノズルが破損することがあります。また，しゅう動板ガードを収納位置にしていると，しゅう動板ガードが破損することがあります。

輸送について

■田植機の準備

苗のせ台及び予備苗のせ台の苗や苗すくい板はすべて降し肥料をすべて排出します。そのあと，ラインマーカ・隣接マーカ・マスコット・しゅう動板ガードを収納し，苗のせ台を機体の中央位置に移動したあと，油圧ロックして下降防止を行ないます。**【87，8D】**は，苗のせ台を左端まで移動させたあと，収納式苗のせ台を収納します。

■トラック上での処置

注　意

＊ 駐車ブレーキを掛け，車止めをし，ロープでしっかりトラックに固定してください。

トラックに積込んだあとに，植付部を上昇し，油圧をロックしてください。

重　要

＊ 施肥部にロープは掛けないでください。施肥機が破損したり，施肥位置が狂って，施肥障害の原因になります。
＊ 肥料を排出せずに輸送すると，タンクステーが破損するおそれがあります。

田植作業のしかた

施肥作業のしかた

■ほ場と肥料について

ほ場や肥料が施肥作業に適さなければ，苗の発育が正常に行なわないことがありますので，施肥機に合ったほ場条件や肥料を使用してください。

◆ ほ場条件

施肥作業を行なうとき，田植作業のほ場条件とあわせて下記事項を守ってください。

1. 夾雑物（わら，刈株，堆肥，雑草など）は施肥田植え時の障害になるので，耕うん・代かき時に下層部に埋込むようにしてください。

補　足

＊ 耕うん・代かき装置は購入先とご相談のうえ，夾雑物を下層に埋込む働きができる機種を選んで使用してください。
＊ 夾雑物が表層部（地表面～深さ８ cm 程度の範囲）にあると，ノズルに引っかかって，施肥ムラ（生育ムラ）をおこすおそれがあります。
＊ 収穫時コンバインのカッタで，わらを切断散布したときは，その上に石灰窒素を散布して秋のうちによくスキ込んで，腐らせておくようにしてください。

2. 耕うん・代かき時の化学肥料の基肥散布は，絶対にしないでください。

補　足

＊ 基肥を全層施肥と側条施肥に分施する農法を行なう場合には，その指定要領に従ってください。

3. 施肥田植機に適したほ場の深さは，10 ～ 25cm が適しています。30cm 以上（補助車輪の場合は 35cm）の深さでは使用できません。

4. 代かき時の均平度をよくして，地表面からの水深が，なるべく一定になるようにしてください。
   代かき後，田面に凹凸がある場合は凸の部分が水面から露出していると土壌硬度が硬くなるので，じゅうぶん湛水して，地表面の凹凸にかかわらず土の硬さを一定に保つようにし，田植えの直前にじゅうぶん落水するようにしてください。

補　足

＊ 土壌の硬軟差が大きいとふく土性能に影響します。

5. 施肥田植作業時の水の深さは，浅水とし 0.5 ～２ cm 程度が適当です。
   (1) 田面の水が皆無（水深０ cm）の場合には作業が困難ですから必ず走り水をしてください。水が皆無の場合には下記のような現象が起こります。
   - 車輪スリップが増し，株間が狭くなります。
   - ノズルに泥詰まりを生じ，肥料が詰まって無施肥区ができ，生育ムラの原因となります。
   - 車輪による泥のかき上げやフロートの泥押しを生じます。

6. ほ場の土の硬さは泥を指でかいてみて跡が少しふさがれる程度が適当です。
   (1) ほ場の土壌硬度（125g のサゲフリを地表面上１ m の高さから落下させて，地表面から土中に入った深さ）は７～ 18cm の範囲内とします。
   (2) ほ場が軟かすぎるとフロートによる泥押しのため隣接条間の確保が困難になるばかりでなく，植付け姿勢も乱れます。
   (3) ほ場が硬すぎると車輪のスリップが増し，株間が狭くなるばかりでなく，ふく土が不完全となり，肥料溶出やノズルが変形するおそれがあります。

7. 作土深さは，深層用**【Q2】**ノズルの施肥深さよりも深く耕してください。

重　要

＊ 深層用**【Q2】**ノズルの施肥深さよりも浅耕の場合は，ノズルが変形したり，苗の植付け姿勢が悪くなったりします。

田植作業のしかた

◆ 肥料について

注 意

＊ 肥料の取扱いの説明をよく読んでください。
＊ 幼児の手の届かないところに保管してください。
＊ 肥料の取扱いにはじゅうぶん注意し，万一目や口に入ったときはすぐに水で洗い流してください。体調に異常を感じたら，すぐに医師の診断を受けてください。

1. 肥料は指定の**側条施肥用**のものを使用してください。
2. 施肥設計に基づき，ほ場の面積から必要施肥量を計算のうえ，必要量よりやや多めに準備してください。

重 要

＊ じゅうぶん揉みほぐされていないと，肥料が流れなくなりポンプの吸い込み不良になったり，センサ・ノズルなどの各部に詰まりが発生する原因となります。
＊ 薬剤を混ぜる時は，薬剤をいったん別の容器で水に溶かしてから，タンクに入れてください。そのままタンクに入れると詰まりの原因になります。

補 足

＊ 肥料はうわずみと固まりに分離することがありますので，そのときは袋を転がすようにしてよく攪拌し，さらによく揉みほぐしてください。
＊ 肥料の内容器は柔らかく不安定ですので，バケツなどに一度移しかえてから施肥機のタンクに補給してください。

■作業前の準備

注 意

＊ 平たんな場所で行なってください。

1. 平たんな場所で，ノズルから肥料が出ても良い場所に機体を止めます。
2. 各部の点検を行ない，汚れや詰まりがあるときは掃除を行ないます。(26 ページ参照) また，破損や摩耗があるときは，交換を行なってください。(26 ページ参照)

重 要

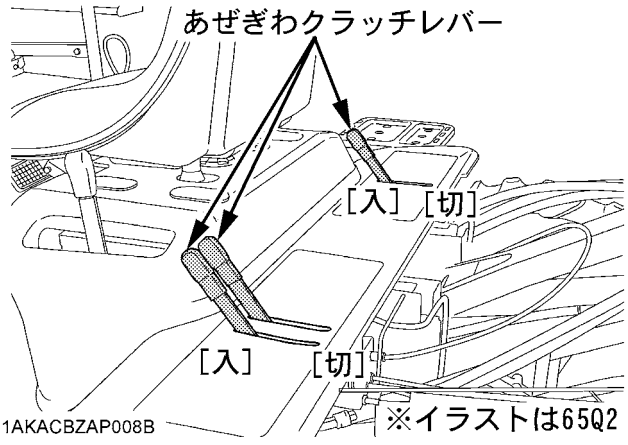
＊ 作業を行なったあと長時間放置すると肥料がチューブ内やポンプ内に固着し，翌日以降の施肥作業に異常が発生(施肥がされないなど)するおそれがあります。

補 足

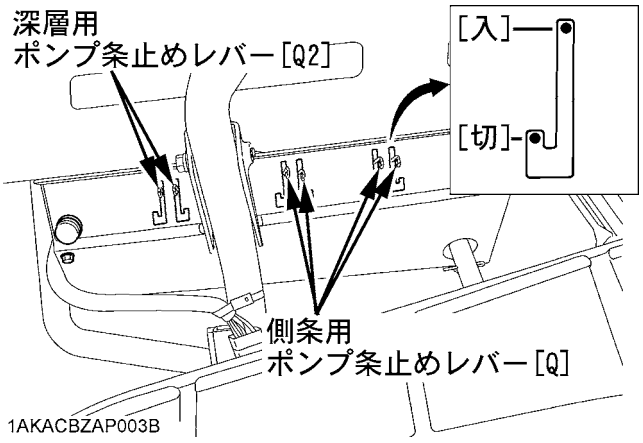
＊ チューブを取外して掃除や点検などを行なったときは，肥料もれが発生しないように正しく取付けてください。(26 ページ参照)

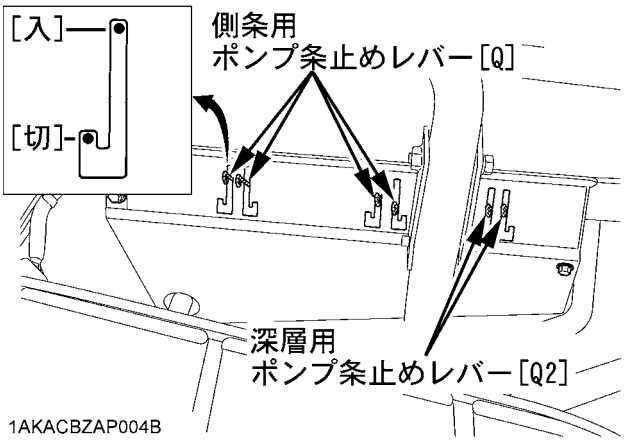
3. 下記項目に異常がないか点検・確認し，異常があれば正しく取付けて各部を作業状態にします。

   (1) あぜぎわクラッチレバーが全条**【入】**位置になっているか確認します。

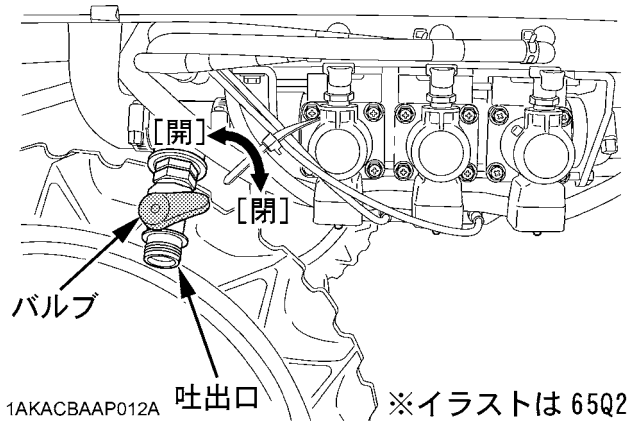


(2) ポンプ条止めレバーが**【入】**位置にあることを確認します。

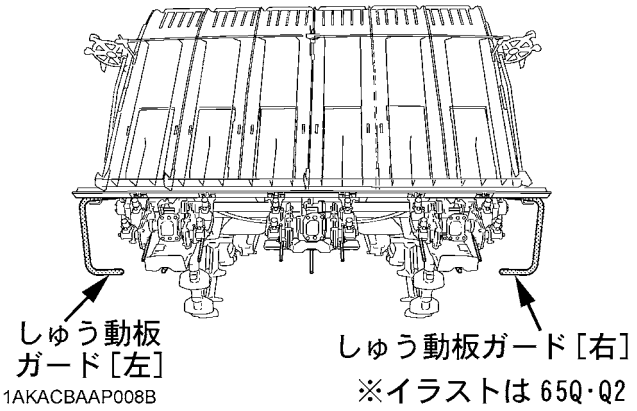




(3) 残肥排出バルブ（左，右）が**【閉】**位置にあるか確認します。



4. エンジンを始動したあと，植付部を上昇させ，油圧ロックレバーを**【閉】**位置にします。

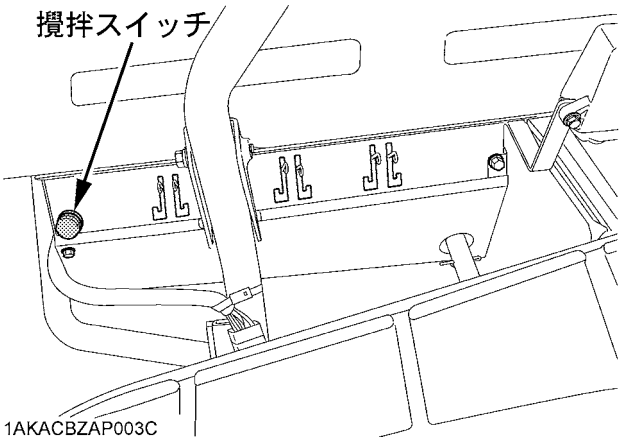


5. ノズルの高さを調節します。(15 ページ参照)
6. しゅう動板ガードを収納位置にしてから油圧ロックレバーを**【開】**位置にし，植付部を下げてしゅう動板ガードが地面に着いたあと，油圧ロックレバーを**【閉】**位置にし，エンジンを停止します。
7. タンクに肥料を入れます。
   (1) 左，右 2 箇所のタンクのふたを開けます。
   (2) よく揉みほぐした肥料をタンクに入れます。
   (3) 薬剤を入れる場合は，別の容器で水に溶かしてから入れてください。

補　足

＊ 水に溶かさずに入れると，詰まりの原因になります。

(4) 肥料と薬剤の攪拌は，右タンク下部にある攪拌スイッチを押すと，肥料と薬剤を攪拌します。

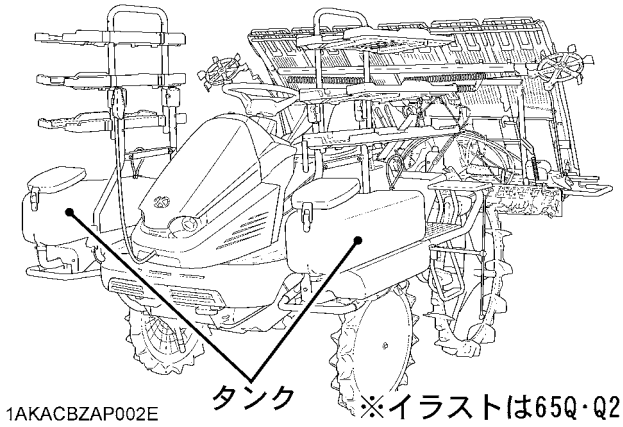


補　足

＊ 攪拌スイッチを押すとスイッチの LED が点灯し，［10 秒正転］→［１秒停止］→［10 秒逆転］→［１秒停止］を繰返し，約５分後に止まり LED も消灯します。
＊ 途中で止めたい場合には，再度攪拌スイッチを押してください。

重　要

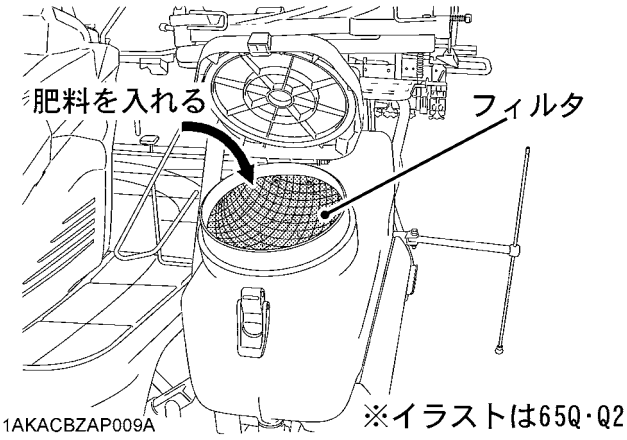
＊ バッテリ上がりの原因になりますので，攪拌スイッチを押す場合は，エンジンを始動して使用してください。
＊ タンク内のメンテナンス，掃除は必ずエンジンを止めて行なってください。



1AKACBZAP002E

補　足

＊ タンク容量は約 36L（50kg）です。
＊ タンクのフィルタは外さないでください。異物が入り，センサ・ノズルなど各部に詰まりの発生の原因となります。

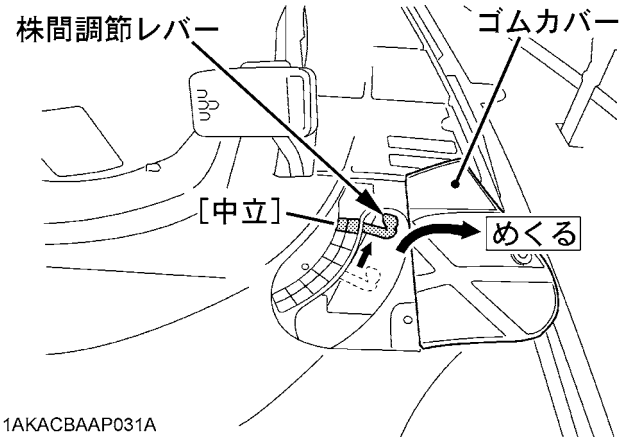


1AKACBZAP009A

＊ 肥料をバケツなどに一度移しかえてから施肥機のタンクに補給すると，作業が楽に行なえます。
＊ 肥料は各タンク均等に入れてください。

(5) タンクのふたを閉めます。

8. 各ホース･ポンプ内のエア抜きを行ないます。
(1) ステップ右側のゴムカバーをめくり株間調節レバーを動かして**【中立】**位置に株間を設定します。

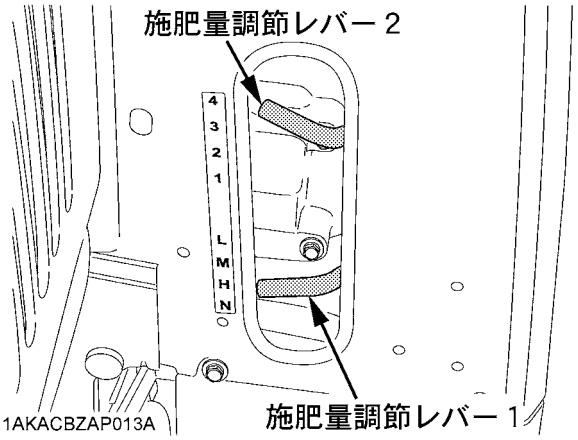


1AKACBAAP031A

補　足

＊ レバーの位置を切換えるときには，副変速レバー**【N】（中立）**位置にしてください。

(2) 各施肥量調節レバー（変速レバー）を**【H】-【４】**の位置にします。



1AKACBZAP013A

(3) 副変速レバーを**【中立】**位置にし，エンジンを始動します。
(4) 十字ポンパレバーを操作し，**【植付】**状態にしたあと主変速レバーを**【前進】**側に操作します。
(5) 植付部の駆動は止まったままで，各ノズルから肥料が繰出されます。
各チューブ内にエア（気泡）がなくなるまでこの作業を続けます。
(6) チューブ内のエア（気泡）がなくなれば，主変速レバーを**【中立】**位置に戻し，エンジンを停止させます。
(7) 各施肥量調節レバー（変速レバー）と，株間調節レバーを作業位置に戻します。

■施肥作業のしかた

エンジンを始動し，主変速レバーを**［前進］**側に動かすと苗の植付けと同時に施肥を行ないます。

◆ 施肥ムラ（成育ムラ）の防止

施肥ムラがあると，肥料のない苗の成長異常となりますので下記事項に注意してください。

(1) 植付始めは**低速**で行なってください。最初の２～３株に施肥がされない場合があります。
(2) 必ず**減速**してから停止してください。急停止すると多肥になる場合があります。
(3) 植付速度は一定の速さで，まっすぐ行なってください。施肥ムラや覆土異常の原因となります。
(4) 枕地の植付けや変形田での植付け時，交差植えや無肥箇所を少なくしてください。多肥になったり，肥料がムダになる場合があります。
(5) 肥料切れのセンサが点灯したら早目に肥料を補給してください。

補　足

＊ タンクの残量が極端に少なくなると，ホースにエアが入り，繰出し量にバラツキが生じるおそれがありますので早い目に肥料を補給してください。もしもホースにエアが入ったときは，必ずエア抜きを行なってください。

◆ 施肥作業中の確認

作業中にタンク内の肥料の減り具合がいつもと比べて異常がないか確認し，処置をします。
(10 ページ参照)

重　要

＊ 植付部を降した状態で旋回するとノズルの破損の原因となったり，詰まりの原因となりますので植付部を必ず上昇してください。

補　足

＊ ほ場の途中で植付部を下げたままなるべく停止しないでください。

◆ 肥料の補給のしかた

肥料が少なくなると肥料切れのセンサがはたらいて，施肥モニタのランプが点滅すると同時に警報ブザーが鳴ります。警報ブザーが鳴ったときは，早目に肥料を補給してください。

重　要

＊ 長時間肥料がない状態で繰出すとポンプが焼付きを起こし，ポンプが動かなくなるおそれがあります。

補　足

＊ 警報ブザーが鳴ったときの肥料の残量は，約8.6L（約 12kg）です。
＊ 肥料を補給するときは苗の補給と同じ要領で停止し，なるべく枕地で行なってください。
＊ タンクの残量が極端に少なくなると，ホースにエアが入り，繰出し量にバラツキが生じるおそれがあります。

◆ 肥料詰まりセンサについて

肥料詰まりセンサは，ノズルやチューブ内に泥水や，肥料の固まりなどの異物が付着して発生する肥料詰まりを知らせるセンサです。センサがはたらくと，施肥モニタのランプが点滅すると同時に警報ブザーが鳴ります。警報ブザーが鳴ったときは，下記手順でノズルやチューブ内の点検と掃除を行なって，異物を取除いてください。

1. 作業を中断し，平たんな場所へ移動します。
2. 植付部を少し上昇し，油圧ロックレバーを**［閉］**位置にし下降防止を行ないます。
3. 肥料の出ないノズルを確認します。確認は，下記のどちらかの方法で行なってください。

● 植付部を駆動し，ノズルを確認する方法

(1) 副変速レバーを**［N］（中立）**位置にし，十字ポンパレバーを操作し，**［植付］**状態にします。
(2) 主変速レバーをゆっくり**［前進］**側に操作し，肥料を繰出します。

● センサを確認する方法

タンク下部のLEDランプが消灯しているところを確認します。(32 ページ参照)

4. ノズルやチューブの掃除を行ないます。

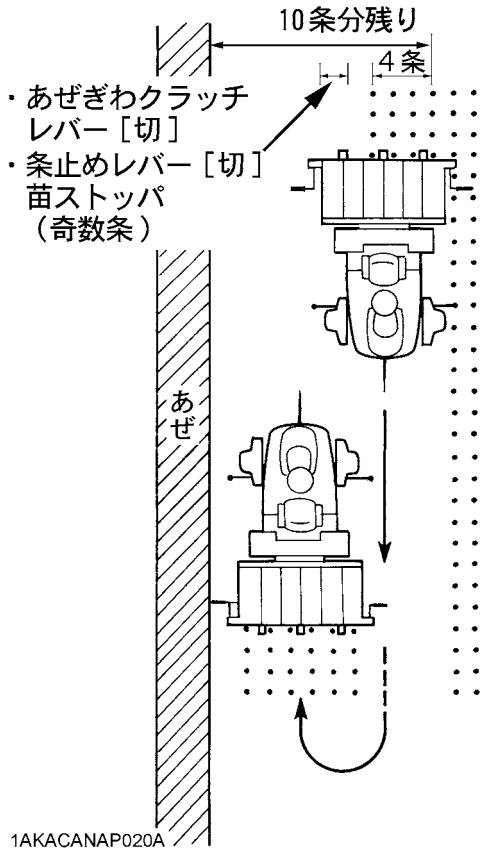
補　足

＊ チューブの掃除は 26 ページ参照してください。

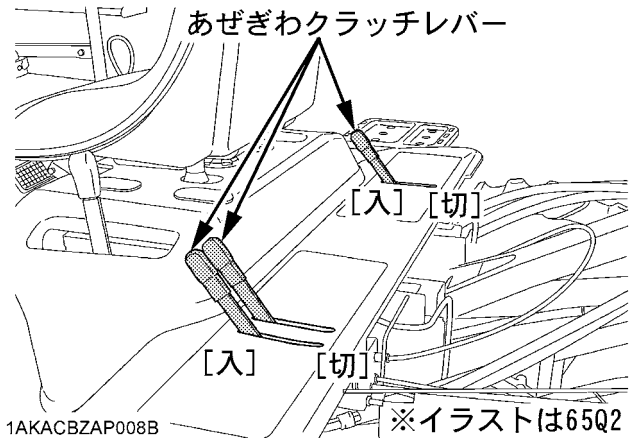
■あぜぎわの植付けかた

植付作業の最終段階で，最終の植付けを全条植えで終わらせるため，あぜぎわの調整の植付けを行なってください。

［例］６条植えの場合



1. あぜぎわから 10 条分残ったとき，あぜぎわクラッチレバーを**【切】**位置にし，右側２条分の植付けを停止し，４条分植付けをします。



補　足

＊ あぜぎわクラッチレバーに連動し，側条・深層とも肥料の繰出しが停止します。

2. 最終はラインマーカを出さずに（収納状態）６条で植付けます。
3. ８条植えについても同じ要領で行なってください。
4. 植付作業が終わるとあぜぎわクラッチレバーを**【入】**位置にしてください。

［67・87，8D］

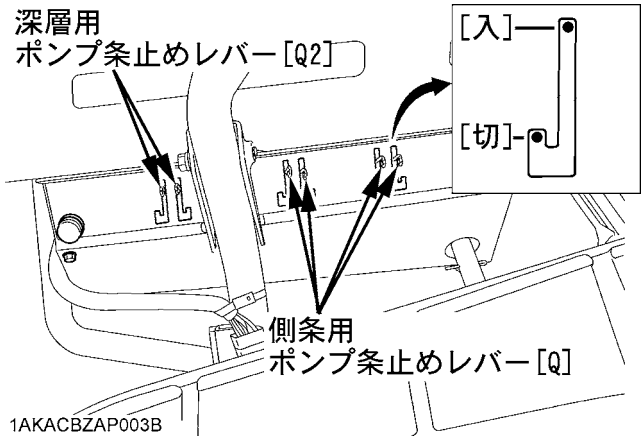
補　足

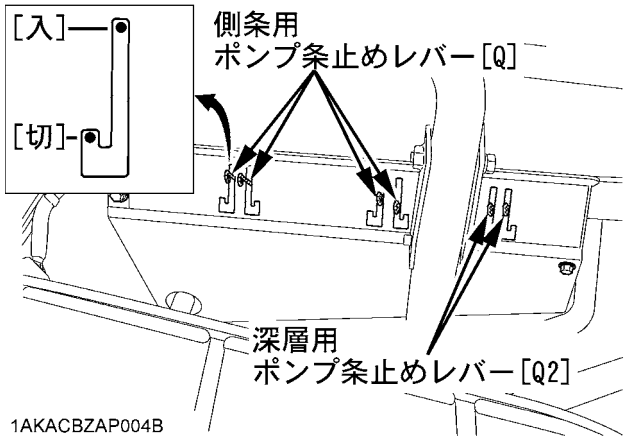
＊ クラッチレバーは右端，又は左端のいずれかからの順番でしか切ることができません。
＊ 入れるときは最右又は最左を**【入】**にすると全条**【入】**に戻ります。内側の条のクラッチレバーから順に**【入】**にし，２条ずつ**【入】**に戻すことも出来ます。
＊ あぜぎわクラッチレバーを使用するときは，植付爪が**【停止】**又は，**【低速回転時】**に行なってください。

［67・87，8D］

重　要

＊ 通常作業時は必ずポンプ条止めレバーも**【入】**位置にしてください。ポンプ条止めを行なったときは，施肥ムラの原因になります。



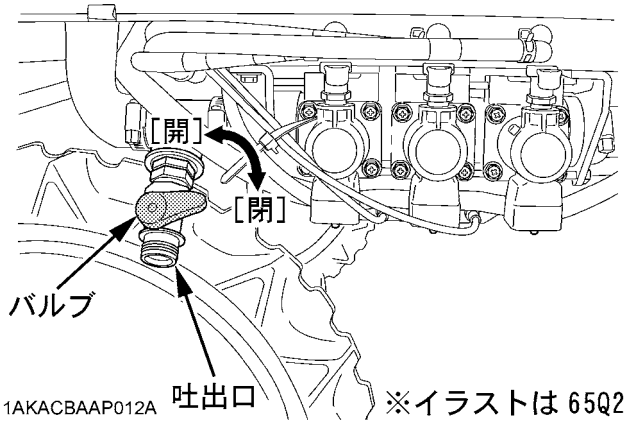


■タンク内の肥料の排出のしかた

注 意

＊ 平たんな場所でエンジンを必ず停止して行なってください。

1. エンジンを停止します。
2. 肥料受け（バケツなど）を準備して残肥排出ホース排出口のバルブを開いて排出します。



1AKACBAAP012A ※イラストは 65Q2

補 足

＊ 肥料受け（バケツなど）は，残量が入る大きさのものを選んでください。排出される最大量は，タンクが満杯時の 72L（約 100kg）です。

3. 排出が終わるとバルブを閉じ，タンク内やポンプに残った肥料や異物の掃除をします。
（26 ページ参照）

作業に合わせた各部の調節･調整

注 意

＊ 平たんな場所で行なってください。

■ノズルの調節

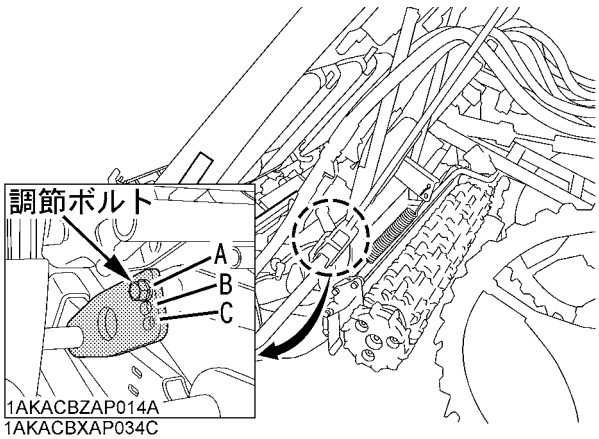
調節はノズルの深さ調節ボルトの位置を組換えて行なってください。調節は３段階行なえます。

1. エンジンを始動したあと，植付部を上昇させます。
2. 油圧ロックレバーを**［閉］**位置にし，下降防止をしたあと，エンジンを停止します。
3. ボルトをゆるめてノズルの位置を全条同じ高さに変更（調節）します。ノズルの位置は植付けケースのボルト（基準位置）からの寸法です。

重 要

＊ 植付深さを変更すると施肥深さも変化します。

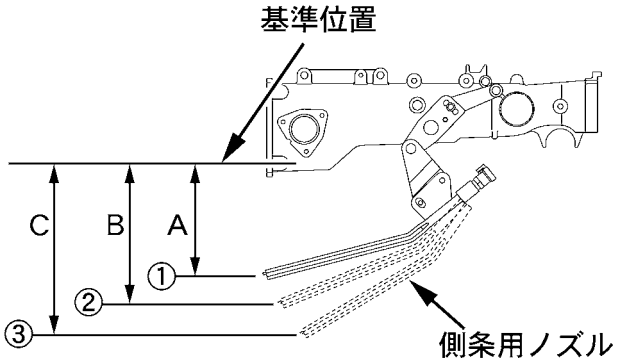
● 側条用ノズル［Q］



1AKACBZAP014A
1AKACBXAP034C

植付深さ調節レバー中央時のフロート底面からのノズルの出代		基準位置（植付けケースのボルト）	
①	2 cm※	A	12 cm
②	4 cm※	B	14 cm
③	6 cm※	C	16 cm

※ 植付深さ調節レバーを１段変化させると，フロート底面からのノズルの出代が 0.8cm 変化します。例えばセット位置 A の場合，レバー中央位置のフロート底面からのノズルの出代が 2cm です。レバーを中央位置より**【浅】**位置まで動かすと，1.6cm 変化しますので出代は 0.4cm になります。逆に**【深】**位置まで動かすと 3.6cm になります。



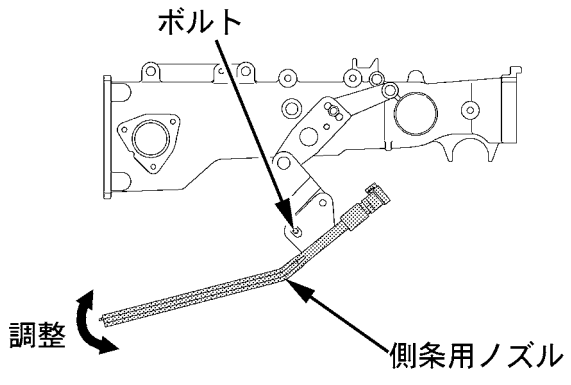
1AKACBZAP015A

重　要

＊ 作業中にあぜなどに当てると変形するおそれがあります。

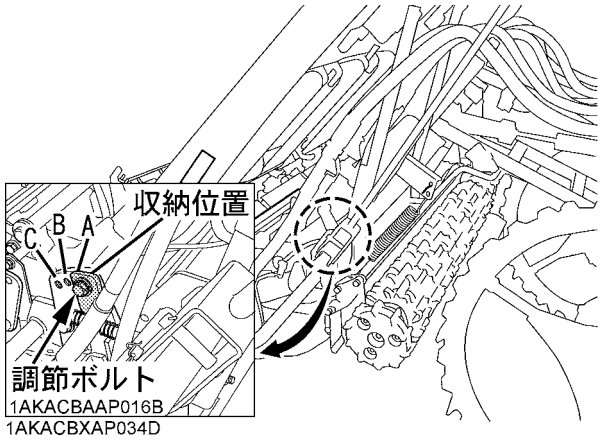
補　足

＊ ２条分のノズルが同時に位置変更します。
＊ ノズルの変形などによりノズルの位置を調整するときは，ボルトをゆるめたあと，植付けケースのボルト（基準位置）とノズルの位置を合わせてください。調整したあとは必ずボルトを締付けてください。



1AKACBZAP016A

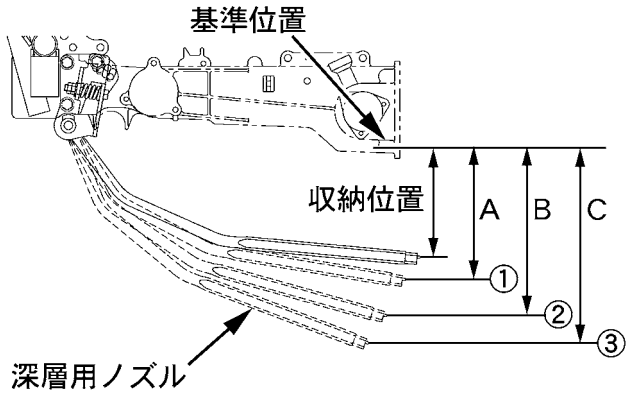
● **深層用ノズル［Q2］**



1AKACBXAP034D

植付深さ調節レバー中央時のフロート底面からのノズルの出代		基準位置	
①	8 cm※	A	17 cm
②	12 cm※	B	22 cm
③	16 cm※	C	25 cm

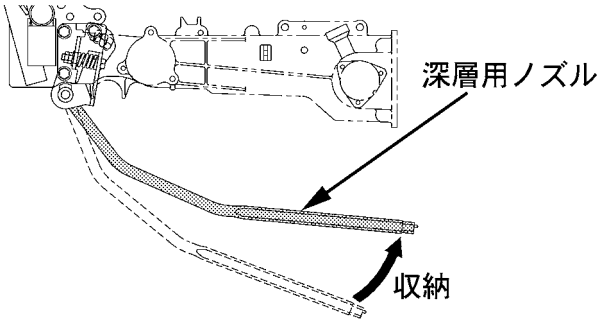
※ 植付深さ調節レバーを１段変化させると，フロート底面からのノズルの出代が 0.8cm 変化します。例えばセット位置 A の場合，レバー中央位置のフロート底面からのノズルの出代が 8cm です。レバーを中央位置より**【浅】**位置まで動かすと，1.6cm 変化しますので出代は 6.4cm になります。逆に**【深】**位置まで動かすと 9.6cm になります。



1AKACBAAP026A

重　要

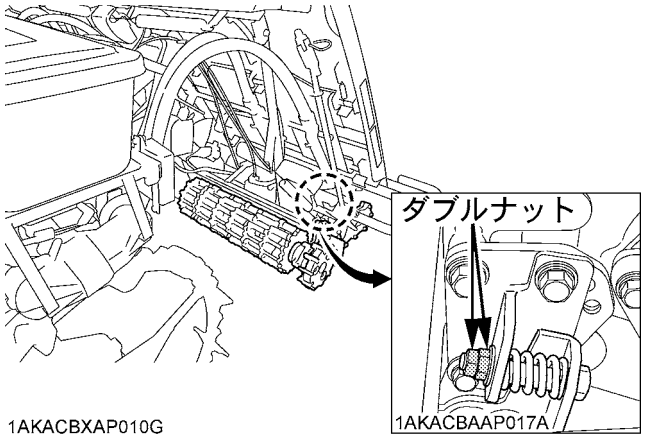
＊ ノズルがあぜや作土深さより深いところ（固い地面）に当たると変形するおそれがあります。
＊ 施肥作業以外のときは，調節ボルトを調節し収納位置にして，ノズルを収納してください。ノズルが固いものと当たると変形や破損するおそれがあります。



1AKACBAAP028A

補　足

＊ ノズルの変形などによりノズルの位置を調整するときは，ダブルナットをゆるめたあと，植付けケースのボルト（基準位置）からのノズルの位置を合わせてください。調整したあとは必ずダブルナットを締付けてください。



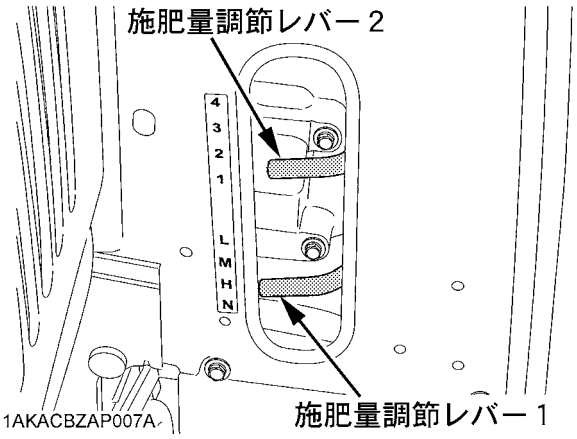
1AKACBXAP010G　1AKACBAAP017A

■施肥量の調節

使用する肥料により施肥（繰出し）量が異なることがありますので，肥料を入れる前によく確認してから調節を行なってください。

◆ 調節のしかた

施肥量（繰出し）量は，フロントマット右下にある変速機の施肥量調節レバー１，２の切換えによって行ないます。



1AKACBZAP007A

補　足

＊ 本機で調節できる施肥量は側条用**【Q】**で 14～64kg/10a，深層用**【Q2】**で7～32kg/10aです。

1. 平たんな場所に機械を止めてエンジンを停止します。
2. 施肥量（10ａ当りに播く量）を決めます。
3. 株間を決めます。（別冊本機編の**作業に合わせた各部の調節・調整**の項参照）

4. **施肥量調節目安表**を参照し，施肥量調節レバー１，２の組換えで調節を行ないます。

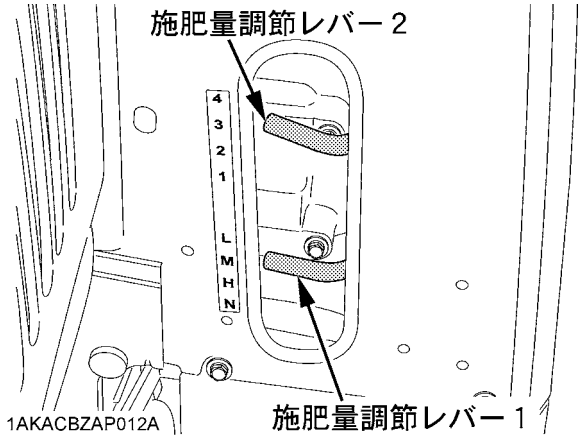
[参考例]

・側条施肥の場合

32kg/10a（製品重）施肥したいとき，目安表より調節（変速）レバー１は**【M】**位置，調節（変速）レバー２は**【３】**となります。

施肥量調節目安表 側条施肥（上段）		
レバー位置		施肥量（窒素成分）kg／10a
L	1	14 (1.7)
	2	16 (1.9)
	3	19 (2.3)
	4	22 (2.6)
M	1	24 (2.9)
	2	28 (3.3)
	3	32 (3.9)
	4	38 (4.5)
H	1	41 (4.9)
	2	47 (5.6)
	3	55 (6.6)
	4	64 (7.6)
深層施肥（下段）の場合は、上記繰出し量の半分となります。 注）この表は目安であり，繰出しテストを行ない再調整してください。		

1AKACBAAP030J



重　要

＊ 上表は，片倉チッカリン（株）のネオペーストで測定したものです。上表より大成肥料（株）のクボタ春風ペーストは，約７％少なくなり，その他の液肥でも約８％少なくなります。

＊ 上表は目安とし，実際には，車輪のスリップ率，ペースト肥料の種類，気温による粘性の違いなどにより施肥量が変わりますので，実際に施肥作業を行ない，施肥量を確認し，目標に合うように再度施肥量を調整してください。

＊ 位置は最初小さめに設定し，多肥にならないよう注意してください。

補　足

＊ 窒素成分 12％の場合は，下表の施肥量調節目安表の（ ）内を参照してください。

施肥量調節目安表 側条施肥（Q仕様）		
レバー位置		施肥量（窒素成分） kg/10a
L	1	14 (1.7)
	2	16 (1.9)
	3	19 (2.3)
	4	22 (2.6)
M	1	24 (2.9)
	2	28 (3.3)
	3	32 (3.9)
	4	38 (4.5)
H	1	41 (4.9)
	2	47 (5.6)
	3	55 (6.6)
	4	64 (7.6)

1AKACBAAP033J

＊ 計算式
窒素成分量（kg/10a）＝製品重（kg/10a）×窒素成分（%）

[例]

製品重 21kg/10a，窒素成分 12% とすると
21(kg/10a) × 0.12 ≒ 2.5(kg/10a)

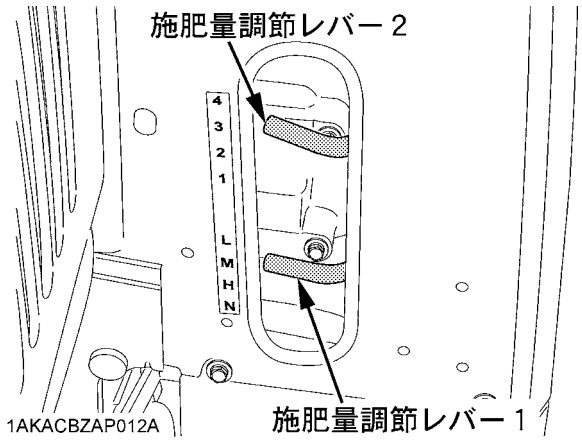
・深層用［Q2］の場合

側条施肥の繰出し量の半分になります。

施肥量調節目安表 ２段施肥（Q2仕様）

レバー位置		施肥量 kg/10a	側条（上段）	深層（下段）
L	1	21.0	14	7
	2	24.0	16	8
	3	28.5	19	9.5
	4	33.0	22	11
M	1	36.0	24	12
	2	42.0	28	14
	3	48.0	32	16
	4	57.0	38	19
H	1	61.5	41	20.5
	2	70.5	47	23.5
	3	82.5	55	27.5
	4	96.0	64	32

1AKACBAAP034J



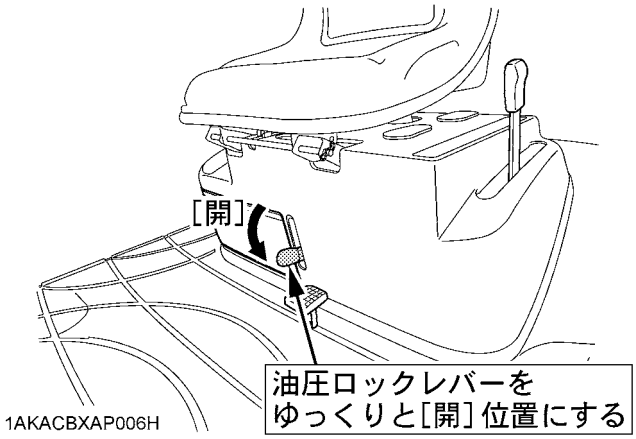
重　要

＊ 上表は，片倉チッカリン（株）のネオペーストで測定したものです。上表より大成肥料（株）のクボタ春風ペーストは，約７％少なくなり，その他の液肥でも約８％少なくなります。

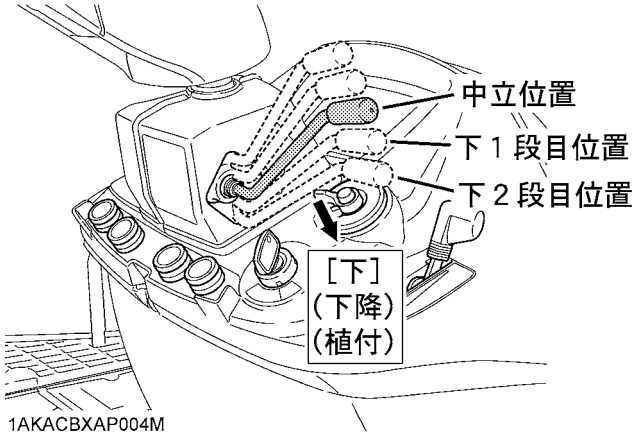
＊ 上表は目安とし，実際には，車輪のスリップ率，ペースト肥料の種類，気温による粘性の違いなどにより施肥量が変わりますので，実際に施肥作業を行ない，施肥量を確認し，目標に合うように再度施肥量を調整してください。

＊ 位置は最初小さめに設定し，多肥にならないよう注意してください。

5．繰出しテストを行ないます。
(1) 肥料をタンクに入れます。(10 ページ参照)
(2) エンジンを始動し，植付部を上昇させ，しゅう動板ガードを収納位置にします。
(3) 油圧ロックレバーを**【開】**位置にします。



(4) 十字ポンパレバーを**【下】**(下１段目位置）で操作して植付部のしゅう動板ガードが地面に着くまで降します。

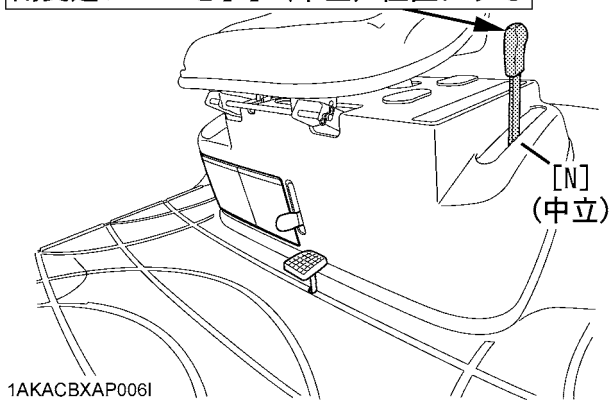


補　足

＊ **下１段目**位置にレバーを下げると，下げている間だけ植付部が下降します。
植付部を一気に接地するまで下げるには，**ピッ**と音が鳴る**下２段目**位置までレバーを下げてください。

(5) 油圧ロックレバーを**【閉】**位置にします。
(6) 変速レバーを**【H】－【４】**に設定します。
(7) 副変速レバーを**【N】(中立)**位置にします。

副変速レバーを[N]（中立）位置にする

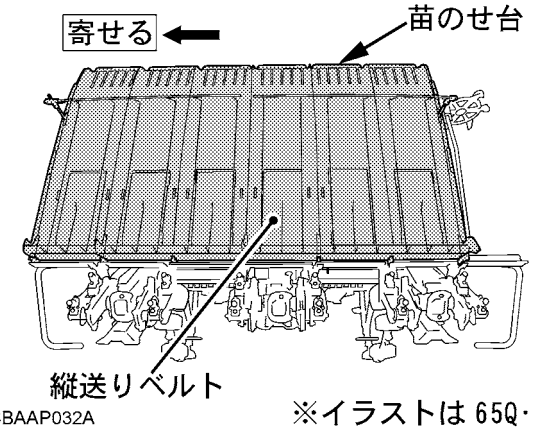


(8) もう一度，十字ポンパレバーを下側にピッと音が鳴るまで押し，植付できる状態にします。
(9) 主変速レバーをゆっくりと**【前進】**側に操作して，植付部を駆動させ，全てのノズルから安定して肥料が出るまで繰出しを行ないます。(10 ページ参照)

補　足

＊ エア抜きが完全にされていないときは，施肥ムラやポンプが停止後も，ノズルから液もれするおそれがあります。
＊ 初めは空気や水も混入しているため，ノズルから肥料が出たり出なかったりします。
＊ ノズルから肥料が出るまで時間がかかり過ぎるときは，ホースなどの連結部や，パイプ・チューブが破けていないか確認してください。

(10)苗のせ台が右端又は，左端まで移動して縦送りベルトが作動した直後に，十字ポンパレバーを**［上］（上昇）**又は，主変速レバーを**［N］（中立）**側に操作して植付部の駆動を停止します。



1AKACBAAP032A

※イラストは 65Q･Q2

(11)エンジンを停止します。
(12)肥料を受ける容器の重量を測ったあと，ノズルの下側に全条分置きます。

補　足

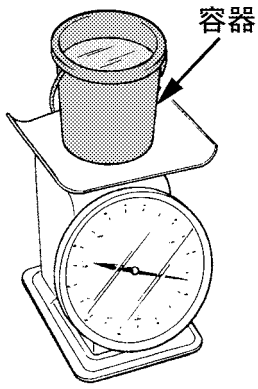
＊ 容器が全条分ないときは，測定箇所以外のあぜぎわクラッチレバーを全て切ってください。
＊ ノズルの深さは，測定しやすい位置にセットしてください。

(13)株間調節レバー及び横送り切換えレバーを実際に作業する位置に調節します。
(14)エンジンを始動します。
(15)十字ポンパレバーを操作し，**［植付］**状態にしたあと主変速レバーを**［前進］**側に操作すると，横送りをすると同時に肥料が繰出されます。
(16)横送りを規定回数繰返し主変速レバーを**［N］（中立）**位置にします。

補　足

＊ 横送りの規定回数と繰出し量については，別表の繰出し表 No. 早見表及び 10a 当たりの施肥量に対する繰出し量（g）を参照してください。

(17)重量を測定し，測定した重量から容器の重量を差引くと，繰出した肥料の重量となります。



1AKACANAP042A

(18)この実質の繰出し量と目標繰出し量を比較し，再度調節します。

補　足

＊ 実際には，車輪のスリップ率，ペースト肥料の種類，気温による粘性の違いなどにより施肥量が変わりますので，実際に施肥作業を行ない，施肥量を確認し，目標に合うように再度施肥量を調整してください。
＊ 位置は最初小さめに設定し，多肥にならないよう注意してください。
＊ 目標の繰出し量は早見表から読み取ってください。

・早見表

1. 繰出し表 No. 早見表から，繰出し表 No. を求めます。

[例]

● ６条植えで条間が 30cm の場合

(1) 株間を 16cm，横送り回数を 26 回（稚苗）で，植付株数 70 株／ 3.3m²のとき，早見表から No.9 の範囲の繰出し量となります。

繰出し表 No. 早見表

型　式	条　間 (cm)	株　間 (cm)	株　数 (株/3.3m²)	横送り回数　（回）		
				16	20	26
5 条 6 条 8 条	30	24	45	**8**	**11**	**13**
	30	21	50	**6**	**9**	**12**
	30	18	60	**4**	**7**	**10**
	30	16	70	**2**	**5**	9
	30	14	80	**1**	**3**	**7**

1AKACANAP043C

太枠内は繰出し表No.

(2) 施肥量（製品重）が 24kg/10a のとき，横送りの規定回数が 10 回の行程（５往復）すると，繰出し表（次ページの 10a 当たりの施肥量に対する繰出し量（g）参照）より１条当たり（側条施肥）の繰出し量は 300g となります。また，深層用 **【Q2】** の場合は，２条分で 300g となります。

2. 繰出し量（近似値）を計算式でもとめます。

$$繰出し量(g)＝\frac{製品重(kg/10a)×株間(cm)×条間(cm)×横送り回数(回)×往復回数(回)×2}{10000}$$

[例]

$$\frac{24(kg/10a)×16(cm)×30(cm)×26(回)×5(回)×2}{10000}＝300(g)$$

補　足

＊ この数値は繰出し量の表と実際の機械的な特性があるため，少し異なることがあります。

＊ 深層用 **【Q2】** の場合は，２条分で上記繰出し量と同じになります。

10a当りの施肥量に対する繰出し量(g)

10a当りの施肥量（kg／10a）	繰出し表 No. 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
14	94	108	118	121	134	141	151	161	175	197	202	229	262
16	108	123	134	138	154	161	173	184	200	225	230	262	300
19	128	146	160	164	182	192	205	219	237	267	274	311	356
22	148	169	185	190	211	222	238	253	275	309	317	360	412
24	161	184	202	207	230	242	259	276	300	337	346	393	449
28	188	215	235	242	269	282	302	323	349	393	403	459	524
32	215	246	269	276	307	323	346	369	399	449	461	524	599
38	255	292	319	328	365	383	410	438	474	534	547	622	711
41	276	315	344	354	394	413	443	472	512	576	590	672	768
47	316	361	395	406	451	474	508	541	587	660	677	770	880
55	370	422	462	475	528	554	594	634	686	772	792	901	1030
64	430	492	538	553	614	645	691	737	799	899	922	1048	1198

1AKACBAAP023A

メインパネルによる異常と処置

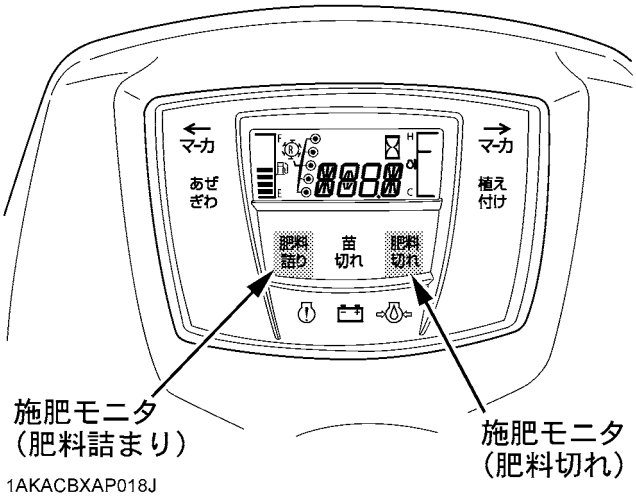
警　告

- **エンジン回りの点検や処置を行なうときは，エンジンを必ず止めてください。**

注　意

- **エンジン停止直後は，エンジンにさわったり，ラジエータキャップを開けないでください。ヤケドをするおそれがあります。**
- **取外したカバー類は，必ず取付けてください。**
- **苗や肥料を補給するときは，走行を停止して行なってください。**

ブザーが鳴り，パネル内のランプが点灯又は，点滅したときや計器が異常を示したときは，下表の処置を行なってください。



1AKACBXAP018J

ランプ	警　報		現　　象	処　　置	参　照ページ
	ランプ表　示	ブザー			
肥料切れモニタ	点滅	断続（８回）	● 肥料が残り少なくなっています。	● 肥料を補給します。	13
肥料詰まりモニタ	点滅	断続（８回）	● 肥料が詰まっています。	● ノズルやチューブを確認して肥料の固まりや異物を取除きます。	13

重　要

＊ 処置したあとに異常が直らないときは，購入先へ連絡してください。

補　足

＊ 警報ブザーは断続で８回鳴りますが，警報ブザーが鳴っている最中に他にも異常が発生したときは，そのときから断続で８回ブザーが鳴ります。また，警報ランプは，異常を処置すると消灯します。
＊ 警報ブザーが鳴り終わったあと，警報モニタのランプが**点滅中**に主変速レバーを**［後進］**位置にすると，バックブザーが鳴ります。そのあと，主変速レバーを**［N］（中立）**位置にすると警報（異常）確認のため，警報ブザーが再度８回鳴ります。

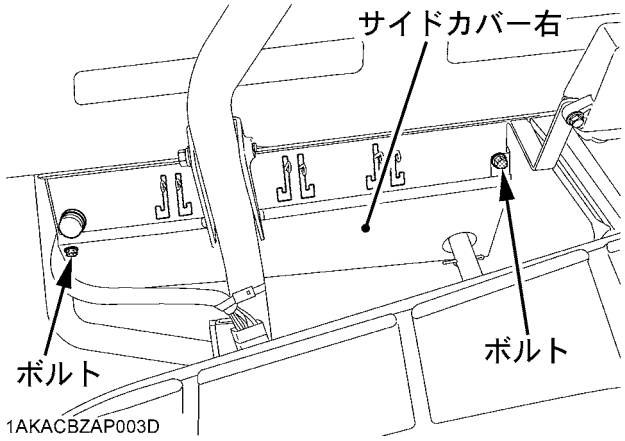
各部のオープン（開閉）と脱着のしかた

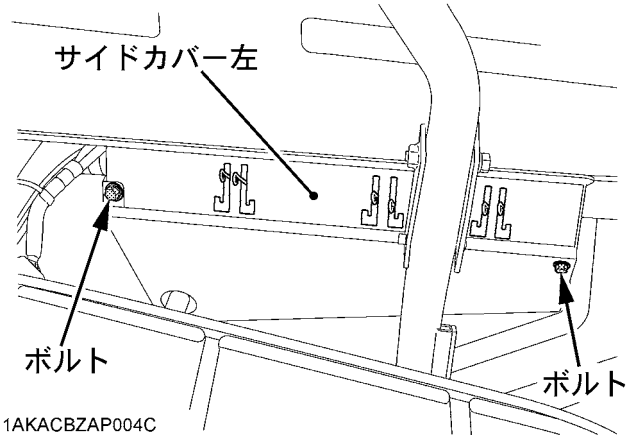
警　告

＊ 平たんで安全な場所で，エンジンを必ず止めてから行なってください。
＊ 取外したカバー類は，必ず取付けてください。

■サイドカバーの脱着

M6 ボルト２本を取外し，カバーを外してください。





各部の掃除のしかた

機械の故障などトラブルが発生しないように，各部の手入れをじゅうぶん行なってください。

警　告

＊ エンジンを必ず止めてください。
＊ 取外したり，オープンした回転部のカバー類は衣服などが巻込み危険ですので必ず取付けてください。

注　意

＊ 植付部を上げた状態で作業するときは，油圧ロックレバーで下降防止をしてください。さらに枕木などを使用して落下防止の歯止めをしてください。
＊ オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。
＊ バッテリ，マフラやエンジン・燃料タンク周辺部にごみや燃料の付着，泥の堆積などがあると火災の原因になることがありますので，取除いてください。
＊ 植付爪の爪先には注意してください。

■掃除のしかた

一日の作業が終わったあとは，各部の泥やごみの掃除を必ず行なってください。掃除するときは，高圧水などを使用すると，泥落としが早く行なえます。

重　要

＊ 水洗いをするとき下記事項に注意してください。
- ボンネット内部や運転席下部の電装品には水を掛けないでください。故障の原因となります。
- タンク内が空の状態で，ポンプを動かすとポンプが焼付いて動かなくなります。

＊ 取外したボルト・ナットは，必ず締付けてください。

1. エンジンを停止します。
2. タンク内の肥料を排出します。(15 ページ参照)
3. 植付部を上昇させてしゅう動板ガードを収納位置にして，ゆっくりと下降させたあと，油圧ロックレバーを**【閉】**位置にし，下降防止を行なったあと，エンジンを停止します。
4. 水道水でタンク内やホース内を洗浄します。このとき，肥料排出口のバルブを開きます。
5. 残肥排出口から濁った水が出なくなるとバルブを閉じます。
6. 各タンク内に水道水を入れます。
7. エンジンを始動し，副変速レバーを**【N】(中立)**位置にします。
8. 十字ポンパレバーを操作し，**【植付】**状態にしたあと主変速レバーを**【前進】**側に操作します。
9. ノズルから濁った水が出なくなるまでしっかりと洗浄し，エンジンを停止し，タンク内の水を排出します。
10. 再度繰出しポンプ内の水を排出します。

重　要

＊ 肥料や水がないときは，爪を回さないでください。
ポンプが焼付くおそれがあります。

補　足

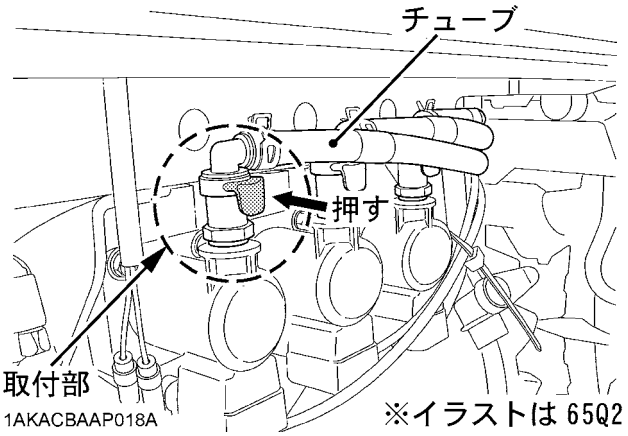
＊ 作業終了後又は，長時間作業を行なわないときは,必ず肥料を排出し,各部の掃除を行なってください。肥料が固まり，各部の詰まりの原因となります。
＊ タンク内の肥料は底に残りやすいので，よく洗浄してください。
＊ 肥料を入れる容器は，鉄製のものはなるべくさけてください。肥料によって腐蝕するおそれがあります。
＊ 作業後に残った肥料は，必ず排出して肥料袋に戻し，キャップをしっかり閉めて，日の当たらない涼しいところで保管してください。
＊ タンクに水を入れるときには，必ずフィルタを通して行なってください。
＊ ホース・ポンプ内に水が残ると，腐蝕，凍結の原因になります。
＊ 付着した肥料が水洗いで取れないときは，次の要領で洗浄してください。

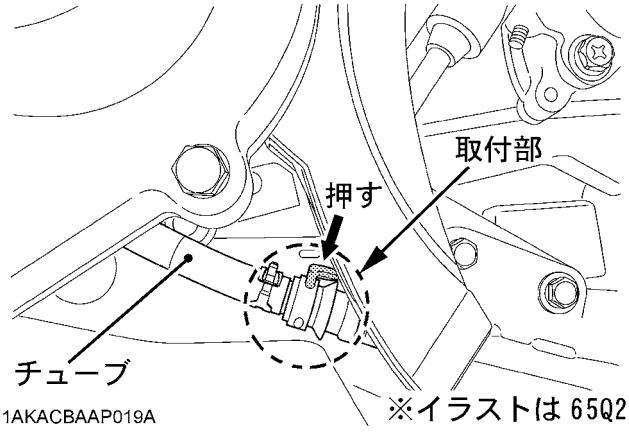
● タンク内

ブラシなどで残量センサ,攪拌モータの羽に注意しながら洗浄してください。

● チューブ

チューブは,ポンプ側とノズル側の接続部の着脱カプラのロック部を解除しながらチューブを抜取ってよく洗浄してください。チューブを取付けるときはロック音が鳴るまで奥に差込み,液もれが発生しないようにしてください。





重　要

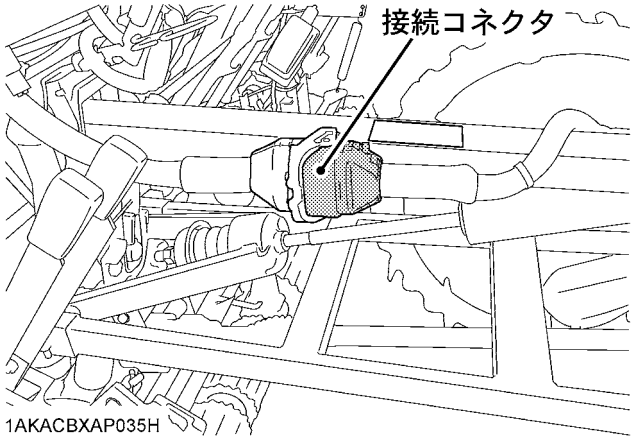
＊ 着脱カプラのロック部を押さずにチューブを強く引張るとチューブが破損したり，開放スリーブを押しても抜取りが難かしくなるおそれがあります。

補　足

＊ 着脱カプラに泥など異物が詰まっているときは，水洗いをして異物を取除いてください。

重　要

＊ **[67・87]** は，本機と植付部を外すとき，液肥がコネクタ端子にかからないように注意して作業してください。もしかかった場合は，乾いた布で拭取ってください。端子の劣化による導通不良のおそれがあります。



定期点検

定期点検は，田植作業を行なう人が定期的に行なう点検です。
田植作業は，使用時間と使用状況に応じて劣化が進み，その構造や装置の性能が低下します。これを放置しておくと故障や事故の原因となり，ひいては田植機の寿命を短くしてしまいます。
田植機の持つ性能がいつまでもじゅうぶん発揮できるよう，定期的に点検を行ないましょう。

警　告

＊ 各部の点検・調整・交換作業を行なうときは，平たんな場所で駐車ブレーキを掛けエンジンを必ず止めて，各レバー類を［切］位置にして，回転部を止めてから作業をしてください。
＊ 取外した回転部のカバー類は，衣服などが巻込まれるおそれがありますので，点検後はカバー類を必ず取付けてから作業をしてください。

注　意

＊ 各部の点検・調整・交換作業を行なうときは，平たんな場所に止めて，駐車ブレーキを掛けてください。
＊ 植付部を上げた状態で作業を行なうときは，油圧昇降ロックレバーで油圧をロックし，植付部の下降防止を行なってください。
＊ オイルの補給中は火気厳禁。
＊ オイルがこぼれたときは，きれいにふき取ってください。

補　足

＊ 専門的な技術や特殊工具を必要とする場合及び定期点検一覧表の参照ページ欄に☆印のある項目は，購入先にご相談ください。
＊ 点検・交換の時期は，使用条件や環境に大きく左右されます。従ってひとつの目やすとして早めの点検をお願いします。

■廃棄物の処理について

警　告

廃棄物をみだりに捨てたり，焼却すると，環境汚染につながり，法令により処罰されることがあります。
廃棄物を処理するときは
＊ 機械から廃液を抜く場合は，容器に受けてください。
＊ 地面へのたれ流しや河川，湖沼，海洋への投棄はしないでください。
＊ 廃油，燃料，冷却水（不凍液），冷媒，溶剤，フィルタ，バッテリ，ゴム類，その他の有害物を廃棄，又は焼却するときは，購入先，又は産業廃棄物処理業者などに相談して，所定の規則に従って処理してください。

■使用者が行なってはいけない修理

下記部品に異常があるときは購入先に連絡してください。

- コントローラ（マイコン）や電気系統（自動制御関係）の機器や部品
- ギヤ（ベベルギヤを含む）を内蔵したケース類
- 油圧系統
- 植付部の動力系統

■定期点検一覧表

○：点検と調整　△：交換　▲：ならし運転後の交換

		点　検　・　交　換　時　期（アワメータ表示時間）									対象型式・仕様	参　照ページ
点検箇所・項目	点検・処置	作業前後	シーズン前後	50時間	100時間	150時間	200時間	300時間	1年ごと	2年ごと		
駆動チェーン	交換						△				全型式	☆
ノズル	交換	○	△：先端が摩耗しているとき								全型式	☆
ポンプ（ステータ・ロータ）	交換							△			全型式	☆

■給･注油（水）点検一覧表

種類	点検箇所	処置	点検・交換時期		容量・規定量（L）	種　類	参　照ページ
			点　検	交　　換			
オイル	変速機	給油・交換	－	・初回 .....10時間目 ・２回目以降 50時間ごと	＊規定量 給油口からオイルを給油する。 0.3	クボタ純オイル スーパー UDT-2	30
グリース	ポンプ,変速機駆動用チェーン	塗布	シーズン終了後	－	適　量	クボタ 純グリース No.2	☆

＊ 参照ページに☆印のある整備（分解作業）については，購入先に連絡してください。

重　要

各部への補給と交換

＊ 点検するときは，機体を平たんな場所において行なってください。傾いていると正確な量を示しません。
＊ 使用するオイル・グリースは，指定のクボタ純オイル・純グリースを使用してください。
＊ 補給や交換の際は，ごみや水が混入しないようにしてください。

補　足

＊ 上表の時間は目安です。機械の使用条件や使用環境などによって，消耗部品の調整や交換時期は異なります。
＊ 使用時間については，メインパネルのデジタル表示は，**主要諸元**の**作業能率**を参照して確認してください。

■オイル・グリースの点検・補給・交換

警　告

＊ オイル補給中は火気厳禁です。

重　要

＊ 補給・交換を行なうときは，機械の故障の原因となりますので下記事項を守ってください。
- 廃油は使用しないでください。
- 給油口やその周辺からごみなど異物や水の混入を防ぐため掃除してください。
- 使用するオイルは**クボタ純オイル**を使用してください。

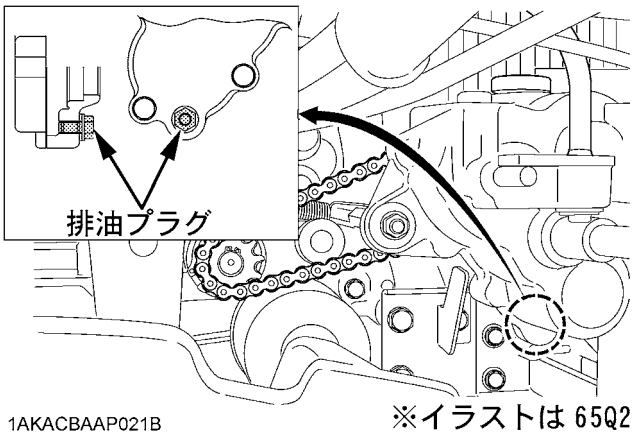
＊ 点検するときは機体を水平な場所に置いて行なってください。傾いていると正確な量を示しません。

1. 変速機オイル

◆ 交換

● 排油のしかた

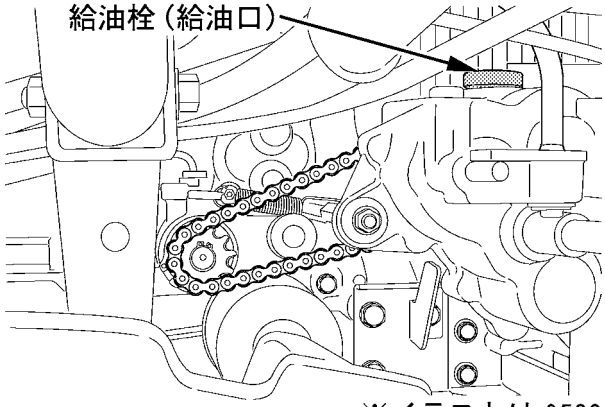
給油栓を外してから，排油プラグを外しオイルを排出してください。



1AKACBAAP021B　※イラストは 65Q2

● 給油のしかた

排油プラグを締付けて，給油口から規定量のオイルを給油し，給油栓を取付けてください。



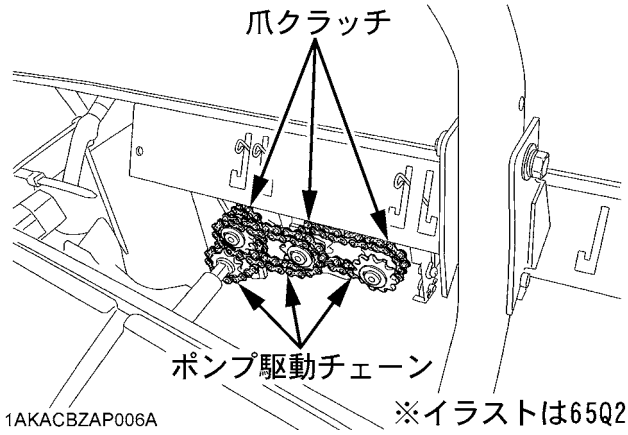
1AKACBAAP021C　※イラストは 65Q2

オイルの種類	規定オイル容量
クボタ純オイル スーパー UDT-2	0.3 L

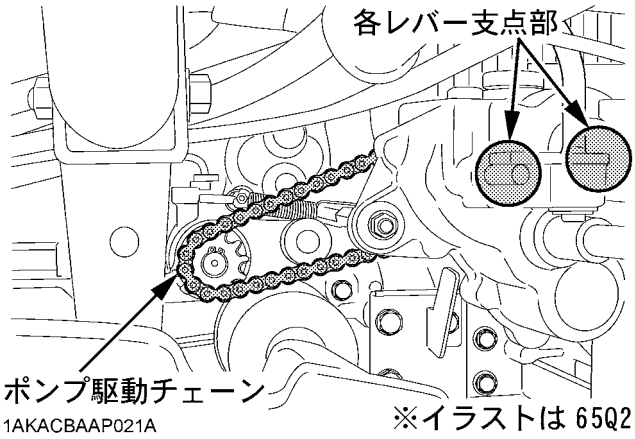
補　足

＊ オイル交換を行なうときは，購入先に連絡してください。

2. 各チェーン・各爪クラッチ・各レバー支点部
サイドカバーを取外し，各チェーンにグリースを塗布してください。

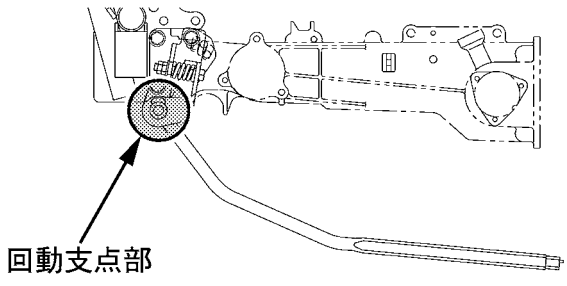


1AKACBZAP006A



1AKACBAAP021A

3. 深層用ノズル回動支点部
深層用ノズル回動支点部にグリースを塗付してください。



1AKACBAAP029A

施肥作業後の手入れ

施肥作業が終わったあとは，機械の点検・整備を怠らず翌日又は，翌年の施肥作業に備えてください。

■毎日の作業後

注 意

＊ 掃除する場合は，必ずエンジンを停止させてから行なってください。

1. 平たんな場所に田植機を停めます。
2. タンクに残っている肥料を排出し，タンク内，ホース内，チューブ内やポンプ内に付着している肥料を水道水で洗い流します。
(26 ページ参照)

補 足

＊ 作業終了後又は，長時間作業を行なわないときは，必ず肥料を排出し，各部の掃除を行なってください，肥料が固まり，各部の詰まりの原因となります。

■長期格納時

田植えのシーズンが終了して翌年まで長期間使用しないとき，格納する前の各部の点検・整備を念入りに行なってください。

◆ 各部の掃除・注油と補修

機体を平たんな場所に停めて下記事項を行なってください。

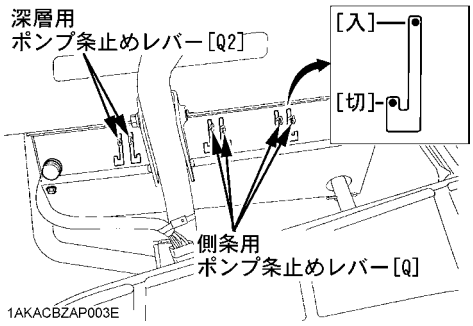
- 肥料を排出し，各部の洗浄を行なったあとは，機体をよく乾燥させてください。
- ポンプ，変速機駆動チェーンに付着している泥などをブラシで取除いたあと，チェーンにグリースを塗布してください。(26 ページ参照)
- 風通しの良い屋内に保管してください。
- 各部のゆるみを調べ，増締めを行なってください。

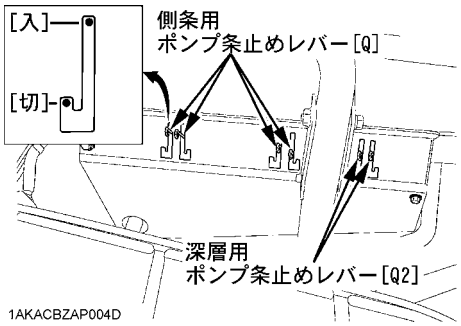
重 要

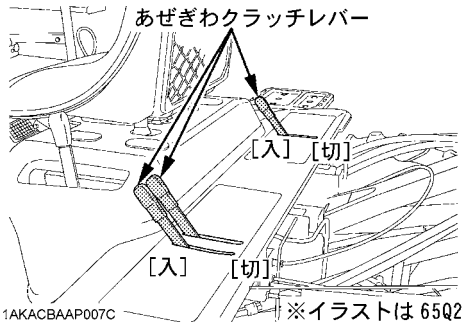
＊ 機体を洗う場合は，電装部品に水がかからないようにしてください。
＊ 各部(特にポンプやチューブ内)の洗浄をしっかり行なわないと次期シーズンに詰まりや施肥ムラの発生の原因となります。

施肥機の不調と処置

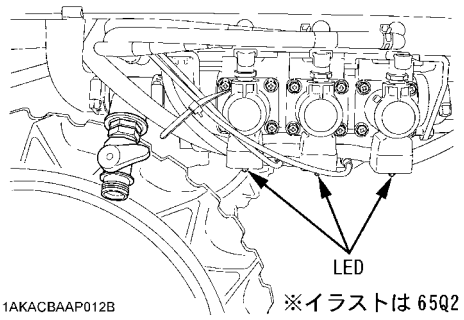
施肥をしない・施肥がばらつく

<table>
<tr><th>このような状態で
（原因）</th><th>このようになる</th><th colspan="2">どうする（処置方法）</th></tr>
<tr><td>施肥に適さない肥料</td><td>1. 施肥量にバラツキがある。
2. タンク内の施肥の減り方にバラツキがある。
3. 施肥をしない。
4. 残量をセンサが誤作動する。</td><td>肥料の処置
1. よく攪拌してタンクに補給する。
2. 固まった肥料は使わない。</td><td></td></tr>
<tr><td>機械の設定</td><td>1. 施肥をしない。
2. 施肥量にバラツキがある。</td><td>機械の処置
1. あぜぎわクラッチレバーが【切】位置のときは，ポンプ条止めレバーを【入】位置にする。
2. ポンプ条止めレバーが【切】位置のときは，あぜぎわクラッチレバーを【入】位置にする。
3. ホース内のエア抜きをする。
4. ホース，チューブの外れがないか確認する。
5. ホースとポンプの継手がきちんと締められているか確認する。</td><td> 





※イラストは 65Q2</td></tr>
</table>

このような状態で（原因）	このようになる	どうする（処置方法）	
各部の詰まり	1. 詰まり警報が鳴る。 2. 詰まっていないのにセンサが鳴る。	**機械の処置** 1. センサの LED が消灯している条のポンプ出口，チューブ，ノズルを洗浄する。 2. センサの LED が点灯しているか確認する。 **消灯している場合** ● カプラがしっかりと差込まれていることを確認する。 **点灯している場合** 購入先に連絡する。	 1AKACBAAP012B ※イラストは 65Q2
施肥ポンプの摩耗・損傷	● 施肥量のバラツキが多くなる。 ● 施肥をしない。	**処置** 1. 購入先に連絡し，ポンプ（ロータ，ステータ）を交換する。	
その他	● 電装系がはたらかない。	**機械の処置** 1. スローブローヒューズ切れのときは，交換する。 2. カプラが入っているか確認する。	

付表

主要諸元

名称					ウエルスターラクエル	
型式					EP55	EP65
区分					Q	Q〈Q2〉
駆動方式					４輪駆動	
機体寸法	全長(mm)				3040	
	全幅(格納時)(mm)				固定：1950　レール：2078	
	全高(mm)				固定：1855　レール：1680	
	最低地上高(mm)				430	
機体質量(kg)					620〈670〉	650〈700〉
エンジン	型式名				GZ410-E2-P〈GZ410-E2-PA〉	
	種類				水冷４サイクル２気筒OHCガソリンエンジン	
	総排気量(L{cc})				0.404 {404}	
	出力/回転速度(kW{PS}/rpm)				7.7{10.5} / 3600 [最大11.0{15.0}]	
	使用燃料				自動車用無鉛ガソリン	
	タンク容量(L)				17	
	始動方式				セルスタータ	
	バッテリ(V・Ah)				12・24 [34A19L]	
走行部	かじ取り方式				インテグラルパワーステアリング	
	車輪	種類	前輪		広幅ノーパンクタイヤ	
			後輪		太リムゴムラグ車輪	
		外径×幅(mm)	前輪	標準	650×95	
		外径×幅(mm)	後輪	標準	900×50	
		輪距(mm)	前輪		975	1165
			後輪		920	1200
		軸距(mm)			1025	
	変速方式				油圧式トランスミッション [HST]	
	変速段数(段)				HST 主変速：前進無段・後進無段 [副変速：２段]	
植付部	植付方式				ロータリ式強制植付け	
	植付条数(条)				5	6
	植付条間(cm)				30	
	植付株間(cm)				※14,16,18,21,24,30	
	植付株数(株/3.3m²)				※80,70,60,50,45,37	
	植付深さ(cm)				2～5.3 [5段階]	
	1株本数調節	横送り量(mm)/横送り回数			11/26, 14/20, 18/16 [3段]	
		縦かき取り量(mm)			8～18	
苗の条件	苗の種類				マット苗	
	草丈(cm)				8～25	
	葉令(葉)				2.0～4.5	
施肥装置	肥料の種類				ペースト肥料	
	施肥方式				側条作溝施肥・強制埋設	
	施肥位置(cm)				苗の側方：3, 深さ：3,5,7〈隔条中央, 深さ：8,12,15〉	
	肥料ホッパ容量(L{kg})				72{100}〈72{100}〉	
	繰出方式				ネジ式ポンプ式	
	繰出量調節方式				変速３×４　12段	
	繰出量調節範囲(kg/10a)				側条14～64〈深層7～32〉	
	ふく土方式				フロートとふく土板	
予備苗とう載数(箱)					6	
警報装置					充電警報[ランプ],油圧警報[ランプ],後進時[ブザー],燃料計,水温計,植付クラッチ入忘れ警報[ランプ・ブザー],苗切れ警報[ランプ・ブザー], LEDマスコット, あぜぎわクラッチ入忘れ警報[ランプ] 肥料切れ警報[ランプ・ブザー], 肥料詰まり警報[ランプ・ブザー]	
作業速度(m/s)					0～1.50 [※0～1.35]	
作業能率[計算値](a/h{分/10a})					～45{13～}	～53{11～}

＊この主要諸元は，改良のため予告なく変更することがあります。
＊Q：ペースト側条施肥機付き仕様
＊〈Q2〉：２段ペースト施肥機付き仕様
＊固定：固定式予備苗のせ台，レール：レール式予備苗のせ台
※車輪スリップ率 10%

名称				ウエルスターラクエル	
型式				EP67	EP87
区分				Q〈Q2〉	
駆動方式				4輪駆動	
機体寸法	全長(mm)			3040	3205
	全幅(格納時)(mm)			固定：1940　レール：1955	固定：2245　レール：2245
	全高(mm)			固定：1850　レール：1680	固定：2090　レール：1730
	最低地上高(mm)			430	
機体質量(kg)				670〈720〉	800〈850〉
エンジン	型式名			GZ460-F-E2-P〈GZ460-F-E2-PA〉	
	種類			水冷4サイクル2気筒OHCガソリンエンジン	
	総排気量(L{cc})			0.456{456}	
	出力/回転速度(kW{PS}/rpm)			8.5{11.5}/ 3600　[最大13.2{18.0}]	
	使用燃料			自動車用無鉛ガソリン	
	タンク容量(L)			17	
	始動方式			セルスタータ	
	バッテリ(V・Ah)			12・24 [34A19L]	
走行部	かじ取り方式			インテグラルパワーステアリング	
	車輪 種類		前輪	広幅ノーパンクタイヤ	
			後輪	太リムゴムラグ車輪	
		外径×幅(mm)	前輪 標準	650×95	
		外径×幅(mm)	後輪 標準	900×50	
		輪距(mm)	前輪	1165	
			後輪	1200	
	軸距(mm)			1025	1160
	変速方式			油圧式トランスミッション [HST]	
	変速段数(段)			HST 主変速：前進無段・後進無段 [副変速：2段]	
植付部	植付方式			ロータリ式強制植付け	
	植付条数(条)			6	8
	植付条間(cm)			30	
	植付株間(cm)			※14,16,18,21,24,30	
	植付株数(株/3.3m²)			※80,70,60,50,45,37	
	植付深さ(cm)			2～5.3 [5段階]	
	1株本数調節 横送り量(mm)/横送り回数			11/26, 14/20, 18/16 [3段]	
	縦かき取り量(mm)			8～18	
苗の条件	苗の種類			マット苗	
	草丈(cm)			8～25	
	葉令(葉)			2.0～4.5	
施肥装置	肥料の種類			ペースト肥料	
	施肥方式			側条作溝施肥･強制埋設	
	施肥位置(cm)			苗の側方：3, 深さ：3,5,7〈隔条施肥, 深さ：8,12,15〉	
	肥料ホッパ容量(L{kg})			72 {100}〈72 {100}〉	
	繰出方式			ネジ式ポンプ式	
	繰出量調節方式			変速3×4　12段	
	繰出量調節範囲(kg/10a)			側条14～64〈深層7～32〉	
	ふく土方式			フロートとふく土板	
予備苗とう載数(箱)				6	8
警報装置				充電警報[ランプ], 油圧警報[ランプ], 後進時[ブザー], 燃料計, 水温計, エンジン異常[ランプ], 植付クラッチ入忘れ警報[ランプ・ブザー], 苗切れ警報[ランプ・ブザー], あぜぎわクラッチ入忘れ警報[ランプ] LEDマスコット, 肥料切れ警報[ランプ・ブザー], 肥料詰まり警報[ランプ・ブザー]	
作業速度(m/s)				0～1.60 [※0～1.44]	0～1.50 [※0～1.35]
作業能率[計算値](a/h{分/10a})				～57{11～}	～65{9～}

＊この主要諸元は，改良のため予告なく変更することがあります。
＊Q：ペースト側条施肥機付き仕様
＊〈Q2〉：2段ペースト施肥機付き仕様
＊固定：固定式予備苗のせ台，レール：レール式予備苗のせ台
※車輪スリップ率 10%

付表

名称					ウエルスターラクエル
型式					EP8D
区分					Q〈Q2〉
駆動方式					4輪駆動
機体寸法	全長(mm)				3300
	全幅(格納時)(mm)				2235
	全高(mm)				固定：2030　レール：1710
	最低地上高(mm)				455
機体質量(kg)					899〈909〉
エンジン	型式名				D902-E3-P
	種類				水冷4サイクル3気筒立型ディーゼルエンジン
	総排気量(L{cc})				0.898{898}
	出力/回転速度(kW{PS}/rpm)				15.4{21.0}/ 3000
	使用燃料				ディーゼル軽油
	タンク容量(L)				17
	始動方式				セルスタータ
	バッテリ(V・Ah)				12・36［50B24L］
走行部	かじ取り方式				アッカーマン方式
	車輪	種類	前輪		広幅ノーパンクタイヤ
			後輪		太リムゴムラグ車輪
		外径×幅(mm)	前輪	標準	650×95
		外径×幅(mm)	後輪	標準	950×50
		輪距(mm)	前輪		1200
			後輪		1200
		軸距(mm)			1160
	変速方式				油圧式トランスミッション［HST］
	変速段数(段)				HST 主変速：無段［副変速：2段］
植付部	植付方式				ロータリ式強制植付け
	植付条数(条)				8
	植付条間(cm)				30
	植付株間(cm)				※14,16,18,21,24,30
	植付株数(株/3.3m²)				※80,70,60,50,45,37
	植付深さ(cm)				2～5.3［5段階］
	1株本数調節	横送り量(mm)/横送り回数			11/26, 14/20, 18/16［3段］
		縦かき取り量(mm)			8～18
苗の条件	苗の種類				マット苗
	草丈(cm)				8～25
	葉令(葉)				2.0～4.5
施肥装置	肥料の種類				ペースト肥料
	施肥方式				側条作溝施肥･強制埋設
	施肥位置(cm)				苗の側方：3，深さ：3,5,7〈隔条施肥，深さ：8,12,15〉
	肥料ホッパ容量(L{kg})				72 {100}〈72 {100}〉
	繰出方式				ネジ式ポンプ式
	繰出量調節方式				変速3×4　12段
	繰出量調節範囲(kg/10a)				側条14～64〈深層7～32〉
	ふく土方式				フロートとふく土板
予備苗とう載数(箱)					8
警報装置					充電警報[ランプ]，油圧警報[ランプ]，後進時[ブザー]，燃料計，水温計，エンジン異常[ランプ]，植付クラッチ入忘れ警報[ランプ・ブザー]，苗切れ警報[ランプ・ブザー]，あぜぎわクラッチ入忘れ警報[ランプ] LEDマスコット，肥料切れ警報[ランプ・ブザー]，肥料詰まり警報[ランプ・ブザー]
作業速度(m/s)					0～1.85［※0～1.67］
作業能率［計算値］(a/h{分/10a})					～86{7～}

＊この主要諸元は，改良のため予告なく変更することがあります。
＊Q：ペースト側条施肥機付き仕様
＊〈Q2〉：2段ペースト施肥機付き仕様
＊固定：固定式予備苗のせ台，レール：レール式予備苗のせ台
※車輪スリップ率 10%

修理・取扱い・手入れなどでご不明の点は まず，購入先へ ご相談ください

おぼえのため，該当する項目に記入されると便利です

購入先名 担当 電話番号（　　）　　－		型式名 区分 車台番号（製造番号） エンジン型式 エンジン番号
ご購入日	キーナンバー	その他装着型式 機械番号

※ご記入の際には、サービスと保証のページをご参照ください。
なお、型式により該当しない記入項目もあります。

ご購入先でご不明の点がございましたら，下記にお問合わせください。

クボタアグリサービス株式会社

北海道事務所：電(011)376-4434　〒061-1274　北海道北広島市大曲工業団地３－１
秋田事務所：電(018)845-1601　〒011-0901　秋田市寺内字大小路207-54
仙台事務所：電(022)384-5162　〒981-1221　宮城県名取市田高字原182－１
東京事務所：電(048)862-1124　〒338-0832　さいたま市桜区西堀５－２-36
新潟事務所：電(025)285-1261　〒950-0992　新潟市中央区上所上１-14-15
金沢事務所：電(076)275-1121　〒924-0038　石川県白山市下柏野町956－１
名古屋事務所：電(0586)24-5111　〒491-0031　愛知県一宮市観音町１－１
大阪事務所：電(06)6470-5850　〒661-8567　兵庫県尼崎市浜１－１－１
岡山事務所：電(086)279-4511　〒703-8216　岡山市東区宍甘275
米子事務所：電(0859)39-3181　〒689-3547　鳥取県米子市流通町430-12
福岡事務所：電(092)606-3161　〒811-0213　福岡市東区和白丘１－７－３
熊本事務所：電(096)357-6181　〒861-4147　熊本市南区富合町廻江846－１
株式会社四国クボタ本社：電(087)874-8500　〒769-0102　香川県高松市国分寺町国分字向647－３

株式会社クボタ

国内農機カスタマーセンター：電(072)241-1375　〒590-0823　大阪府堺市堺区石津北町64

EP55/65/67/87-Q/Q2
EP8D-Q/Q2
AQ. L. 4-4. 0. K

Kubota

安全宣言

安全はクボタの願い

このマークは「お客様」「ディーラ」「クボタ」の三者が
一体となって安全宣言を行うための統一マークです。

品番　PT005-9751-2

株式会社クボタ
〒556-8601
大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号